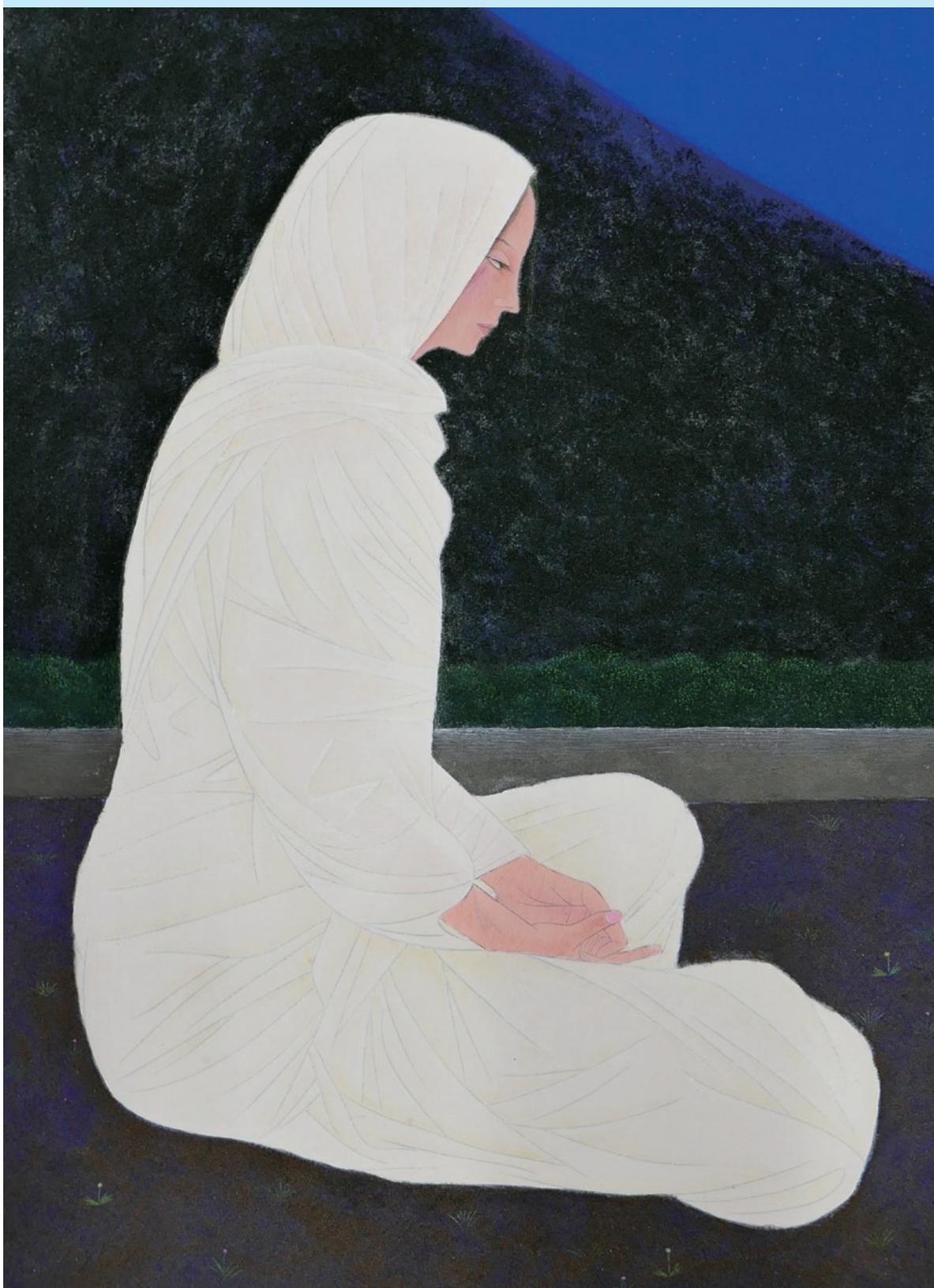


MUJINTO

The Alumni Association of Otani University

2017年9月
No.142

無書燈



大谷大学同窓会

新会長からのメッセージ

「大谷大学の歴史と伝統を想う」



大谷大学同窓会長 いしばし ぎしゅう
石橋 義秀

このたび、計らずも伝統ある大谷大学同窓会長の大任に就くことになり、恐縮しております。浅学非才の私が、とてもこのような大任に応えうるものではありませんが、昭和38年に大谷大学入学以来、50年にわたり、お育ていただいた母校の御恩に少しでも報いることができたという思いから、大役を引き受けた次第です。

歴史と伝統ある大谷大学の同窓会長として長年にわたり、常に真摯な姿勢と強い情熱を示してこられた佐々木教悟先生と藤島建樹先生を範としまして、少子化が進む時代に、母校が「仏教を世界に発信する大学」として評価されるように、私も応援団のひとりとして、力を尽くしていく覚悟です。同窓会員皆様方の御支援と御協力を先ずお願い申し上げます。

顧みますと、大谷大学に入学した時代は、宗門の子弟が非常に多く、当時の学長・曾我量深先生は、入学式において「君たちを社会（俗世間）に役立つ人間に育てるつもりはない」という主旨の祝辞を熱く語られたことを54年後の今も鮮明に記憶しています。入学したばかりの私は曾我先生の真意が理解できず、将来、教員を目指していたので、何故「社会に役立つ人間」を育てられないのだろうか疑問に思いました。卒業後、縁あって母校に勤務してから曾我先生は、「経済や政治等の世間に役立つ人間ではなく、真宗・仏教を伝えていける真の人間を育てよう」とお考えになったのであろうと理解いたしました。

50年余り経過した現代は、少子高齢化が進み、多様化しており、大谷大学の学生たちの気質や志望動機は大きく変わりました。そういう意味で、曾我先生の教えは、受け容れにくい点があるかもしれません。しかしながら、どの学部・学科であれ、俗世間に媚びず、仏教を伝えていける人間を育てるという基本は変わらないと信じています。

松尾芭蕉は、「不易流行」を俳諧の基本的理念としました。大谷大学の基本的理念も永遠に変わらない釈尊・親鸞聖人の教えを学び・伝えるという面＝「不易」と、その時代に応じた新風を受け容れ、世界に発信するという面＝「流行」との二つが重要です。真宗・仏教の学びを核にして、新しい学部〔教育・社会〕がスタートするのは時代に応じた進展と賛同します。

恩師・多屋頼俊先生は、『源氏物語』をはじめ、日本古典文学を仏教の視点から研究を大成された学者ですが、名著『和讀史概説』や『親鸞集』（岩波書店・日本古典文学大系）等、数多くの研究業績を残された先生です。多屋先生は、仏教文学の演習（ゼミ）や講義の時間に、「大谷大学の国文学研究は京都大学など他大学の国文学研究とは異なり、真宗・仏教を基本にしたものであります。仏教の視点から研究をしなければなりません。」と常にお教えくださいました。仏教文学のゼミ専攻学生の多くは、多屋先生の教えに依り、仏教を学び、各方面で仕事をしています。私も御蔭で大谷大学の教員として、37年間母校にお世話になり、ささやかですが、多屋先生の教え〔仏教の視点から国文学研究〕を学生たちに指導してきました。

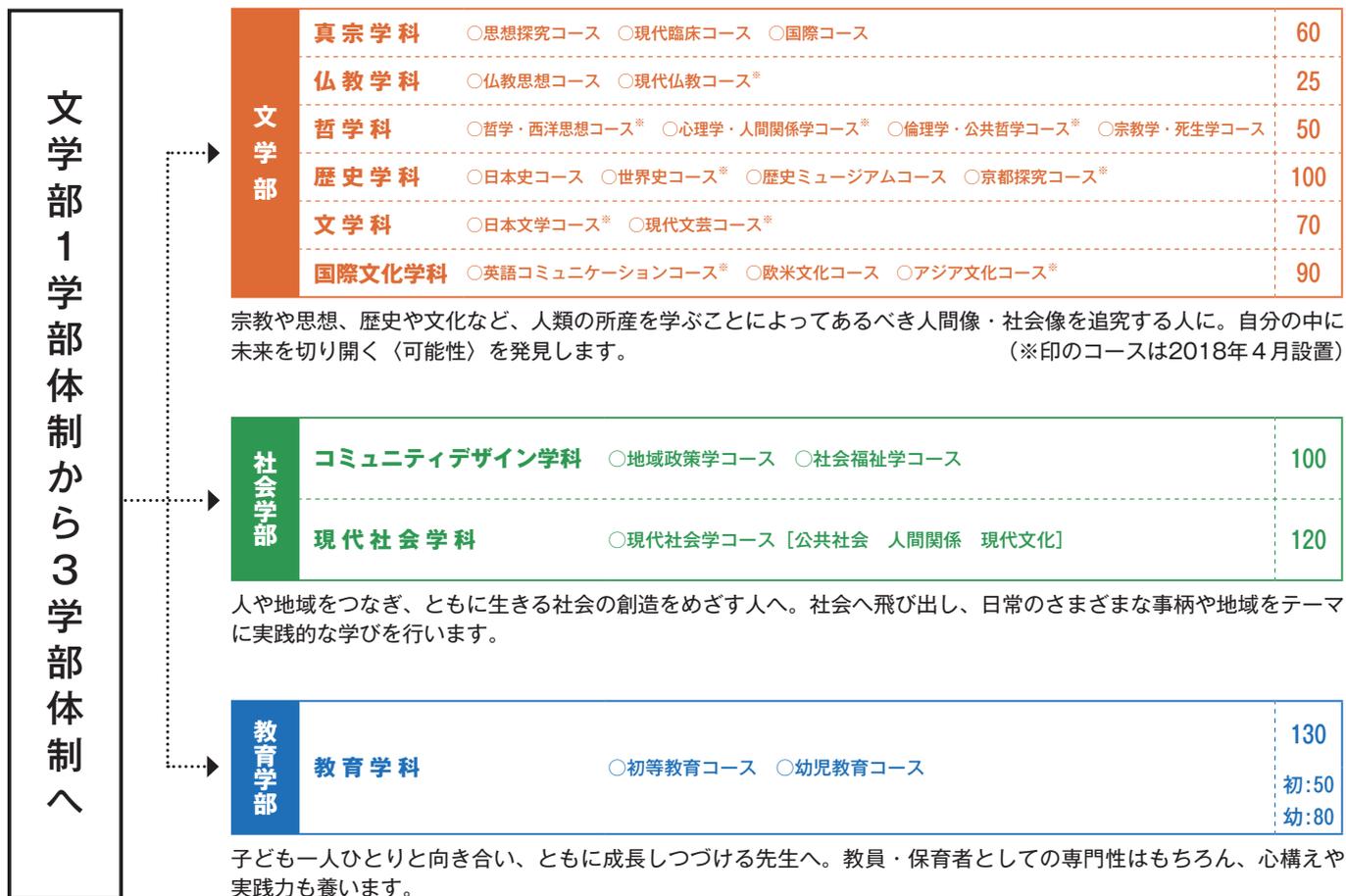
曾我量深先生・多屋頼俊先生の教えは時代を超えて、大谷大学の基本的理念に合致すると思います。大学の教壇を離れて、4年になりました。直接に教室で学生と接する機会はなくなりましたが、学園祭・ホームカミングデーなど大学の行事を通して触れ合うことができます。また同窓会のお借りして、応援団の一員として、先師・恩師の貴重な教えをお伝えしていきたいと思うことであります。

最後になりましたが、大谷大学同窓会と母校の発展を念願して、会員の皆様と共に、尽力したいと存じます。

2018年4月、大谷大学は 3学部体制に生まれ変わります。

大谷大学は開学以来、文学部の単科大学として、あるべき人間像を追究し、他者を敬って生きることのできる社会をめざして教育・研究を進めてきました。2018年4月、その理念をさらに強化し、学びと研究を深めるため、文学部社会学科と人文情報学科を発展的に統合して「社会学部」に、文学部教育・心理学科を「教育学部」に発展させ、3学部9学科で、新入生を迎え入れることとなります。

※数字は入学定員



大谷大学短期大学部幼児教育保育科の学生募集停止について

大谷大学複数学部化にともない、このたび大谷大学短期大学部幼児教育保育科の2019年度以降の学生募集を停止することといたしました。

幼児教育保育科は、1966（昭和41）年4月に設立され多くの保育者を輩出してきました。しかしながら、保育者養成の高度化を図るため、幼児教育保育科の理念や役割を、2018年4月からスタートする教育学部教育学科幼児教育コースへと発展的に統合いたします。在学生や、2018年4月の新入生を含めたすべての学生は、これまで通り幼児教育保育科での学修をすすめ卒業することとなり、卒業に至るまで教育環境（幼稚園教諭二種免許、保育士資格取得）を継続し、進路・就職支援についても同様にサポートしてまいります。

*再入学・年度外復籍を検討している場合は、至急、学生支援課に相談してください。

新教室棟 ^{きょう}〈慶 ^{もん}聞 ^{かん}館〉

オープニングセレモニー

本部キャンパス総合整備計画に伴い工事が進められている新教室棟は「慶聞館」と命名され、2016年9月19日に中央・南エリアがオープンしました。

当日は、オープニングセレモニーが開催され、学校法人真宗大谷学園・里雄康意理事長の挨拶から始まり、本学・木越康学長の挨拶後、大勢の学生・教職員が見守る中、里雄理事長、木越学長、中田創学生会中央執行委員長によるテープカットが行われました。
(肩書は2016年9月19日現在のものです)



学生ロビー

慶聞館の1階中央には「学生ロビー」が設置され、その愛称を公募し仏教学科の鷲尾諒さんが提案した「ミニナイル・プラザ」に決まりました。リラックスした雰囲気の中でキャンパスライフを送れるように配慮し、その周囲に各種支援室や学生支援部の事務局を配置し、学生のサポートを行っています。



マルチスペース

本学のシンボルである尋源館（旧本館）をキャンパス軸の中心に据え、ガラスを多用した外装・内装設計を活かして、「どこからでも尋源館が眺められる」よう、尋源館への眺望を重視しています。

学生が主体的・協働的に学び活動するアクティブラーニングを有機的にサポートできる施設として整備されています。また、さまざまな学びに活用できるマルチスペースを各階に配置しています。



慶聞館見学会

同窓会本部では、ゼミクラスや学寮の同期会、クラブのOB・OG会や、同窓会の各支部の方々が慶聞館の見学を希望される場合、慶聞館の案内をしています。事前にご相談ください。



新教室棟建築 第3期工事進行中

本部キャンパス総合整備計画に伴う新教室棟建築工事は、全体の3分の2が完了し、現在、第3期工事として新教室棟北エリア、新教室棟・響流館連結ブリッジの工事が進行しています。2018年4月にグランドオープン予定です。

☆工事の進捗状況は、大谷大学ホームページ本部キャンパス総合整備計画でお知らせしています。

【URL】 http://www.otani.ac.jp/buildup_plan/nab3mq000003gx6d.html

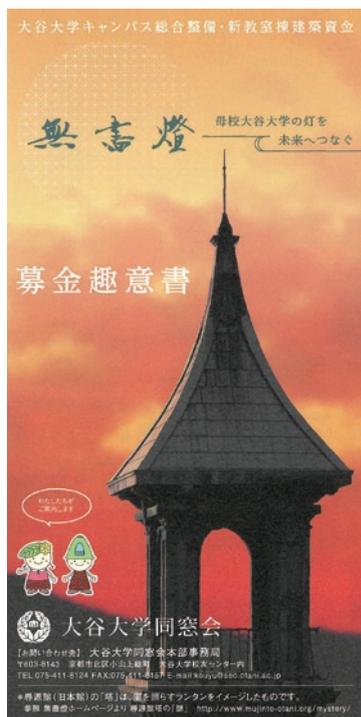


キャンパス総合整備・新教室棟建築資金募金のお願い

同窓会では、引き続き募金活動を行っています。

趣意書を同封していますので、おひとりでも多くの方にぜひご寄付いただきたく思っておりますので、よろしくごお願い申し上げます。

なお、募金については、同窓会各支部よりご依頼がある場合がございます。



募金名称 大谷大学キャンパス総合整備・新教室棟建築資金募金

募金目的 教育振興資金 教育研究施設・設備の充実のため

総事業費 68億円

募金目標額 募金総額6億円のうち、同窓会として2億円

募金の期間 2015年8月1日~2019年3月31日

ご依頼金額 個人の場合

寄付金額 一口10,000円

同窓生の皆様には、5口以上のご寄付を賜れば幸いです。
1口未満のご寄付も有り難くお受けいたします。

団体の場合

何口からでも、有り難くお受けいたします。

寄付者名簿の作成

ご寄付いただいた方の芳名・法人名で寄付者名簿を作成します。払込取扱票には芳名等の掲載の可否についてご記入ください。

同窓生の図書館、博物館利用について

同窓生は、大谷大学の図書館、博物館（特別展無料）を利用することができます。ただし、図書館の利用には、利用証申請手続きをお願いします。

図書館利用証申請手続きについては、大学ホームページにてご確認ください。

図書館についてはこちら→http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/library/

博物館についてはこちら→http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

大谷大学と私



友田孝興先生に
インタビュー

「出遇いの慶び
よき師・よき友・よき学生との」

本学で40年あまり教鞭をおとりいただいた友田孝興先生に、尋源館でお話を伺いました。

▶先生が大谷大学に入学され、ドイツ文学を専攻することになった経緯からお教えてください。

毎日新聞のマニラ支局に赴任していた父親の戦死と、その悲嘆と苦悩からの解放を求めての母親の倦くことなき聞法、この二つが、私が大谷大学に目を向けることになる大きな要因でした。母親は、いつも三経を訓読であげていました。そして曾我量深先生や金子大榮先生の法話の集まりがあると聞くや、どこへでも追っかけて聴聞に出かける始末。そんな訳で、いつしか私も、蓮如ゆかりの出口の光善寺の檀家生まれではありませんでしたが、母親が尊敬してやまない先生方から直に真宗学や仏教学を学んでみるのもいいかなあと。こんな思いからの入学でした。

ところが入学して2年目に、一般教養の授業で大庭米治郎先生からドイツ語を学ぶことになり、この先生との出遇いが真宗学や仏教学からドイツ文学へと方向転換する機縁となってしまいました。というのは、レッスンの『賢者ナタン』（岩波文庫、但し今のは別の翻訳者）という名著の翻訳者が、まさにこの先生なんだということを知り大きな感動を覚えたからです。この先生について行こうと。

▶学生時代のことをお聞かせください。

私が入学した頃の大谷大学は、立派な赤煉瓦の建物（尋源館）と古い趣のある木造の講堂（壁には歴代の学長の肖像画が飾られていた）と、宗祖の700回御遠忌を記念して建てられた真新しい鉄筋コンクリート造りの図書館（後の至誠館）とが大学のよき伝統と革新を象徴しているかのようでした。しかし授業を受ける木造2階建の学舎はというと、教室には裸電球が2つ吊り下がっているだけ。冬場の暖房は教壇横の達磨ストーブが一つ。しかし秋のお彼岸頃になると、赤煉瓦の尋源館とその南側の緑の松林の間から、彼岸花が周りの色と美しいハーモニーをなしながら咲き競い、

烏丸通や北大路通には市電が走る。こんなゆっくりと時間が流れる時代に私は谷大での学生生活を送ったのです。

ドイツ文学を専攻して最初に驚いたのは、学生2人に教授が4人。こんな2人に対し、大庭先生からは『ファウスト』の演習で、映画評論でその名を知られた外村完二先生や西洋美学に精通された中島万次郎先生からはヘッセやケラー等の講読で、同志社に移られた直後の岸繁一先生からは語学の講読で、徹底的に鍛えられました。

私が谷大に学んでつくづく良かったと思うのは、ドイツ文学にせよ真宗学・仏教学の授業にせよ、多くの先生方との学問的な授業を通しての出遇いの慶びが、更には人格的な触れ合いの慶びへと発展して行ったことにあります。金子先生をご自宅に訪問したとき、先生は法蔵菩薩の話をしてくださり、「法蔵菩薩は雑巾であり、如来は水である」、「法蔵菩薩は私の内において、日夜雑巾がけの仕事をし、如来の水で心の垢を洗い除いてくださっているんだよ」と。曾我先生の講義は、熱が入ってくると手をあげながら立ち上がられるのが常でした。先生から頂いた「遇光」の書は、まさに母親が先生に出遇ったことの慶びの心境を反映するものでした。亡くられる直前、第一日赤へお見舞いに行ったのが最後の別れとなりました。鈴木大拙先生の集中講義は、自然の「そのまんま」を大事にされた仏教学者としての人がいつもよく現れていて、笑いの内に深い感銘を与えるというものでした。

▶先生が本学で教鞭をとることになった経緯をお聞かせください。

卒業後の就職のことを考え始めていた4回生の夏休みの直前のこと、大庭先生から、もう少しドイツ文学の学びを続けてはみないかというお話がありました。大学院への進学など考えてもみなかった私にとっては、これは嬉しさと同時に、先の見えない不安の闇に新たに突き落とされるかのような一言でもありました。しかしどうにか先生が勧めてくださった学習院の大学院に入学を許されることとなったのです。

ここでも、谷大同様、多くの先生方から、深い人間的な触れ合いの内にドイツ文学を学ぶことができたことは、本当に幸せなことでした。とりわけ秋山英夫先生からは、よく自宅に招いていただき、また後年、有り難いことに、ご自身の貴重なニーチェ文献の全てを大谷大学に寄贈までしてくださったのです。

こんな東京での学びの途中で、不意に恩師の大庭米治郎先生がお亡くなりになるという事態が起きました。そして修士課程を終える頃、谷大から助手に迎えるので帰ってこないかという話をいただき、喜んでお受けした次第です。

▶ドイツの大学に留学された経緯についてお聞かせください。

ゲータはインドに取材したバラードを二つ作っています。「神と遊女」と「バリア」がそれぞれですが、このゲータのインド体験の解明にはゲッティンゲン大学が所蔵する豊かな文献資料の入手が不可欠でした。いつか留学してこれらを集めたい。そんな思いでいる折、私学振興福祉会が在外研究員の募集をしていることを知り、応募してみたところ、幸運なことにそれに選ばれることになったのです。ゲッティンゲンでも、ゲータ研究の著名な学者であるシェーネ教授が私を自宅の書斎に招き入れ、親身になって私の研究に助言と支援を与えてくださいました。その後、京都に先生が来られたとき、大谷大学にもお立ち寄りくださったことが、

懐かしく思い出されます。この留学で、新しいドイツの恩師との出遇いと、大谷大学に在籍する私にとって有利なゲーテとインドの関係を解明する研究の進展が得られたことは、無上の大きな喜びでした。

▶大学の要職を色々歴任されていますが、その思い出となることについてお聞かせください。

最初は廣瀬学長のもとで学生部長を務めさせていただきました。その後、訓覇学長のときには真宗総合研究所の所長を。ちょうど蓮如上人の500回忌のときでしたので、『蓮如の世界』という記念論文集を出版し、また目前に迫り来る大谷大学の開学100周年を意義深く迎えるための『大谷大学近代化百年の歩み』という写真集の刊行。それに加え、本学とドイツのマールブルク大学との間で、姉妹関係を結び、「浄土真宗と福音主義神学」というテーマのもとでシンポジウムを持つのではないかと、という話が煮詰まってきました。その中心に立って指導的役割を果たしてくださったのが、神戸大学からお迎えした、本学出身の大河内了義先生と本学の哲学の箕浦恵了先生でした。シンポジウムを成功させるために、親鸞の『唯信鈔文意』の独訳作業をすぐに開始し、その完成をまって、私が所長を退任した翌年の1999年に、マールブルク大学の壮麗な歴史的講堂で、市民の参加も得て意義深いシンポジウムが開かれました。その後も、本学との間で、学的な友好関係が継続していることは嬉しい限りです。

小川学長のときには学監・文学部長となり、近代化100周年を迎えるに当たり、本学の前身である真宗大学の開校場所の特定から仕事が始まりました。当時、同窓会の東京支

部長をしてくださっていた今は亡き二階堂行邦師と共に、夏の暑い最中、汗を流しながら何度も現地を歩き回りました。そして豊島区の区長さんのお力添えを得て、明治時代の古地図の提供を受け、やっとその場所を特定するに至ったのです。

校地の大半は、現在JRの職員寮になっていて、そこに記念碑を設置することは認められませんでした。また先の区長さんのご理解とお力添えにより、そして荻野石材店主からの石材の寄進を得て、当時の「宮仲」の地名が唯一残っている「宮仲公園」に「大谷大学開学の碑」が設置されました。どうぞ一度訪れてみてください。

もう一つ、要職とは無関係のことですが、2005年には、「日本におけるドイツ年」の協賛事業として、フランクフルトのゲーテ博物館が所蔵するファウストに関する名宝を集めた「ファウスト展」を本学の新しい博物館で開催できたことは、谷大が果たすべき社会的使命の意義深い一齣でした。

▶今後の大谷大学に願うこと、大谷大学へのメッセージをお願いします。

大谷大学が素晴らしい人間教育の大学へと益々発展してきているのを目の当たりにし、嬉しきで一杯です。小さな大学から迸る大きな叡智と行為を大切に。

星々のように
急ぐことなく
休むことなく
各人は回りゆけ
自己の重荷の周りを

ゲーテ

〔略歴〕	1983年～1985年	大谷大学学生部長	『ドイツ詩想のこみち』（文栄堂）
1943年 大阪府に生まれる	1996年～1998年	大谷大学真宗総合研究所長	「ゲーテの『西東詩集』の研究」
1966年 大谷大学文学部卒業			「ゲーテにおける詩と根源現象」
1968年 学習院大学大学院修士課程修了	2000年～2002年	大谷大学学監・文学部長	「ファウスト ある魔術師の変容と救済」
1968年 大谷大学助手			「レッシングの戯曲と宗教的啓蒙精神の研究」
1972年 大谷大学専任講師			「リルケにおける死の問題」
1974年～1975年 ドイツ・ゲッティンゲン大学に留学	〔著書と論文〕		「シラーにおける人間性の完成としての美」
1979年 大谷大学助教授	『ゲーテと十八世紀』（文栄堂）		「ヘッセ文学における愛と自由について」
1990年 大谷大学教授	『ゲーテとプラトン』（文栄堂）		「ドイツのアウグスブルク版『天正遣欧使節肖像画』」
2008年 大谷大学退職	『東西文学の世界』（朝日出版社）		他論文 多数
現在 大谷大学名誉教授	『ゲーテとインド』（水馬洞）		
	『ドイツ語の翼にのって』（白水社）		

友田孝興先生へのコメント 友田先生の「やさしさ」と「厳しさ」 大谷大学准教授 廣川 智貴(ドイツ文学)

友田先生の穏やかな笑みを想起される同窓の方も多いのではないのでしょうか。今にして思えば、あの先生のやさしさは、厳しさの裏返しであつたように感じられます。

厚さ10cmほどもあるノートを小脇に抱えて教壇に立たれるのが先生のスタイルでした。それを読まれるのかと思いきや、先生はちがいました。ノートを一度も開かず、淀みのない講義を展開されたのです。これは周到な準備なしにはできません。先生のご自身への厳しさが、

ここにはありました。

また先生は「谷大生なら勉強しなさい」ともよくおっしゃいました。こうした学生への厳しさは、谷大独文の伝統に裏打ちされたものでした。大庭先生を父とし、外村先生を母とする独文の伝統を、先生が熱く語られたのを今でもよく覚えています。現在はレッシングの名作『賢者ナータン』を翻訳中とのこと。ますますのご活躍を念じております。



ひろかわ ともき
廣川 智貴
1997年3月 大谷大学文学部文学
科卒業
2002年3月 京都大学大学院文学
研究科文献文化学専
攻博士後期課程研究
指導認定退学
2005年3月 博士(文学)
2007年4月 大谷大学講師
2011年4月 大谷大学准教授

同窓会オリジナルグッズ販売中

大谷大学同窓会では、オリジナルグッズを販売しています。購入を希望される方は、大谷大学同窓会本部（校友センター）までEメール、FAXまたは郵送にてお申込みください。

オリジナル念珠・念珠袋

同窓会本部では、オリジナル念珠・念珠袋を制作いたしました。この念珠は、本部キャンパス総合整備計画・新教室棟建築工事の工事区域内に植えられていた楠を利用して制作いたしました。（2016年3月以降の卒業・修了記念品として使用）

〈男性用・女性用各3,000円（送料別）〉



オリジナルケータイマグ

同窓会本部では、オリジナルケータイマグ（サーモス製）を販売しております。（2015年3月・9月の卒業・修了記念品として使用）〈2,500円（送料別）〉



これ以外のオリジナルグッズ

オリジナル念珠・念珠袋、オリジナルケータイマグ以外にも、オリジナル名刺入れ3,000円（送料別）、オリジナルブックカバー 3,000円（送料別）、オリジナル本革トレイ 3,000円（送料別）などがあります。

同窓会ホームページ「無盡燈」の、「会員特典・オリジナルグッズ」のページにも掲載しておりますのでご覧ください。

同窓会ホームページ「無盡燈」のアドレスは、以下のとおりです。

http://www.mujiinto-otani.org/use_facilities/index.html

大谷大学同窓会本部

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内

TEL. 075-411-8124 FAX. 075-411-8157 E-mail kouyu@sec.otani.ac.jp

支 部 だ よ り

大谷大学フェアを開催

2017年7月10日(月)、ラマダホテル新潟（新潟県新潟市）において、大谷大学フェア（信越）を開催いたしました。

大谷大学フェア（信越）とは、信越地区の大谷大学同窓生、在学生保護者、大谷大学に関心をお持ちの方々を対象とした、同窓会・教育後援会・大谷大学の合同企画です。

当日は同窓会三条支部の支部総会、進学相談会、教育後援会保護者懇談会などを開催し、あわせて公

開講演会（大谷大学・同窓会三条支部／夏季八十講）を行いました。公開講演会では、木越学長が「生老病死」を考えると題する講演を行い、多くの一般市民の方々や、同窓会員、教育後援会員など、約60名の方々にご出席いただきました。講演会後の懇親会でも、再会を懐かしむ同窓生の姿などが見られ、盛会となりました。



公開講演会

支部事務局の設置



大垣支部長 太宰 行信

どちらの支部にも、支部会則というものがあるかと思えます。大垣支部の場合、第7条に「本会は、次の役員をおく」として、「顧問(若干名)、会長(兼支部長1名)、副会長(3名)、事務局長(1名)、幹事(若干名)、監事(2名)」とあり、第8条には「本会の顧問、会長、副会長、監事は幹事会で選考の上、総会の議決を経て推挙する」とあります。また第9条には、「本会の幹事は、真宗大谷派大垣教区各組から選出された者とする」とあります。そして、第16条に「幹事会は、会長、副会長、幹事によって構成し、必要に応じて会長これを召集する」とあります。

幹事の皆様には、担当組の寺院の会員について、支部会費の徴収、あるいは物品の配布をお願いしており、これが会員の皆様との顔合わせ機会を増幅し、行事への参加に大いに役立っているように思います。まことに有難いことです。また昨年総会には、当支部の顧問でもあられました廣瀬杲先生を偲ぶ会を開催したことで、多数の会員の出席を得ることができたのではないかと思います。

今一つ特記したいことは、会長を引き受けるよう話を頂いた時、このところ8年間北米開教区及び横浜別院に赴任して、地元で暗くなっていることを心配すると、事務局長を置けばどうかと言われて、これまで無かった事務局長を選任することになりました。今では事務局長を中心にした会報編集委員会が立ち上がり、2000年の第15号で休刊していた支部会報が、2012年には第16号を続刊することができました。爾来、毎年続刊されています。また同委員会では、2013年より、夏の支部総会記念講演を冊子にし、「大垣支部の聴記」として、「支部会報」同様支部会員に送付しています。



廣瀬杲先生を偲ぶ会

夏季八十講の会場と広報

神奈川支部長 渡辺 賢

私たち神奈川支部では、夏季八十講を当初は同窓会会員のみで行い、ホテルの一室で開催することから始まりました。その後、県内の大谷派寺院に案内するようにはしてからは、ご門徒の方々が参加するようになり、会場を横浜別院に移して開催しております。更にその後、支部に関わる若手スタッフ(現役員)が、真宗大谷派首都圏教化推進本部の事業である横浜親鸞講座のスタッフと重なっていたこともあり、横浜親鸞講座の受講者にも案内ができないかという意見がありました。そして、横浜親鸞講座の受講者にも案内するようにはいたしました。広報の方法としては、尋源館をデザインに取り入れた両面印刷(カラー刷り)のチラシなどを作成し、会員はもちろん、県内大谷派寺院と横浜親鸞講座受講者にDM発送しております。また、東京教務所や横浜別院の機関紙には開催要項の掲載をお願いし、各寺院にはご門徒への参加奨励のご案内をお願いしております。

また会場につきましても、横浜親鸞講座が開かれている横浜駅前の会場を使用するようにし、公開講座の形式に変えたことにより、大変多くの一般参加者と共に受講するに至っております。

参加者が増えた理由としては、近年はテーマが少し柔らかくなり親しみやすくなったことで、共感される方が多くなったからではないでしょうか。

京都より遠く離れた神奈川の地で、同じ大学に通った者同士、年に1度、1人でも多くの同窓生が集まることを望んでいます。



2016年夏季八十講(神奈川支部)

母校だより

名誉教授の称号贈られる

このたび、大谷大学名誉教授称号授与規程に基づき、本学の教育上、また学術上、特に功績のあった先生に贈られる名誉教授の称号が桂華淳祥先生（中国近世史）、に贈られました。

授与式は4月1日（土）に学長室において行われました。



桂華淳祥先生

課程博士の学位を授与

2017年3月17日（金）の学位記授与式においては、博士後期課程修了者5名に「博士（文学）」の学位が授与されました。学位取得者は、東真行（真宗学）、川口淳（真宗学）、工藤祥子（仏教文化）、松岡智美（仏教文化）、山本春奈（仏教文化）の各氏です。



（左より）川口淳氏、東真行氏



（左より）工藤祥子氏、松岡智美氏、山本春奈氏

赤レンガ賞授与式

2013年度に創設されました「赤レンガ賞」の授与式が、2017年3月17日（金）に執り行われました。この表彰は、学生時代に様々なことにチャレンジし、結果を残してきた学生を表彰する機会を設けたいという教育後援会の思いからはじまり、今回で、4回目の表彰となりました。

2016年度も、学外での活躍が認められた3名が表彰されました。

受賞されたのは、池口風沙さん（国際文化学科第3学年）、佐々木健さん（真宗学科第2学年）、元平雅仁さん（歴史学科第1学年）です。

池口さんは、「第48回京都府クラブ対抗ボウリング選手権大会」で優勝されたほか、「第49回京都府ボウリング選手権大会」、「第48回全日本大学個人ボウリング選手権大会」で結果を残しました。佐々木さんは「第67回県民体育大会」のスキー競技成年男子Aの部で1位となり、「第72回国民体育大会冬季大会」への出場を果たしました。元平さんは、「第14回北信越地区空手道選手権大会」の組手青年男子で3位となりました。

授与式では、三村智子教育後援会会長より、励ましの言葉とともに表彰状と奨励金が授与されました。

その後の懇談会では、箕浦学生部長、教育後援会役員の方々からも祝福の言葉が贈られました。

受賞した3名はそれぞれ次の大会に向けての意気込みや活動状況を語ってくれました。

今後の更なる活躍に期待しています。



「赤レンガ賞」受賞者と教育後援会役員・大学執行部

人事

（2016年8月1日～
2017年7月31日）

執行部の交代

[研究・国際交流担当副学長]

加藤 丈雄

[入学センター長]

中川 眞二

2017年4月1日付（各通）

[学監・事務局長]

岡本 学

2017年7月1日付

[企画・入試部事務部長]

岡田 治之（再任）

[総務部事務部長]

中島 弘喜

[学生支援部事務部長]

角山 佳史（再任）

[教育研究支援部事務部長]

藤谷 徳孝

2017年6月1日付（各通）

館長等の交代

[真宗総合研究所長]

加藤 丈雄

[学寮長]

山田 恵文（再任）

2017年4月1日付（各通）

退職

*定年退職

[教育職員]

桂華 淳祥（教授・文学部）

[事務職員]

岡崎 要（学生支援部）

松原 文孝（学生支援部）

[技術職員]

辻 敏明（総務部）

2017年3月31日付（各通）

***契約期間満了による退職**

[教育職員]

池田 敬子 (特別任用教授・文学部)
池田 佳和 (特別任用教授・文学部)
渡邊 拓也 (任期制講師・文学部)
稲葉 維摩 (任期制助教・文学部)
関本 真乃 (任期制助教・文学部)
田鍋 良臣 (任期制助教・文学部)
中山 量純 (任期制助教・文学部)
長谷川雄高 (任期制助教・文学部)
渡邊 温子 (任期制助教・文学部)

[事務系嘱託]

上田 祥子 (総務部)
北村 和香 (総務部)
鈴鹿真知子 (企画・入試部)
田中 基代 (総務部)
横田 絢子 (総務部)

[寮監]

小和 慎平 (貫練学寮)
稲岡 智子 (自灯学寮)

[学習支援アドバイザー]

戸次 顕彰
2017年3月31日付 (各通)

***依頼退職**

[学監・事務局長]

寺西 龍水
2017年6月30日付

[教育職員]

佐々木 拓 (任期制助教・文学部)
2016年8月31日付

[専任職員]

岩田 政代 (総務部)
田中 葵 (総務部)
2017年3月31日付 (各通)

[事務系嘱託]

小寺 祥世 (教育研究支援部)
山田まりえ (教育研究支援部)
2016年8月31日付 (各通)
太田美紀子 (企画・入試部)
2016年9月30日付

***死亡退職**

[教育職員]

飯田 剛史 (特別任用教授・文学部)
2016年8月20日付

新規採用

[教育職員]

池末 陽子 (任期制助教・文学部)
2016年9月1日付

國賀由美子 (教授・文学部)
田中 正隆 (准教授・文学部)
徳田 剛 (准教授・文学部)
渡邊 拓也 (准教授・文学部)
泉谷 瞬 (任期制講師・文学部)
岡部 茜 (任期制講師・文学部)
東 真行 (任期制助教・文学部)
川口 淳 (任期制助教・文学部)
岸野 亮示 (任期制助教・文学部)
駒井 匠 (任期制助教・文学部)
塚島 真実 (任期制助教・文学部)
根無 一行 (任期制助教・文学部)
野澤 真樹 (任期制助教・文学部)
森 類臣 (任期制助教・文学部)

[事務職員]

木下 翔吾 (学生支援部)
丸山 美穂 (教育研究支援部)
山崎 友梨 (学生支援部)
2017年4月1日付 (各通)

[事務系嘱託]

天山 信楽 (教育研究支援部)
清水あゆみ (教育研究支援部)
2016年9月1日付 (各通)
石川 淳 (教育研究支援部)
大伴 瑠弥 (企画・入試部)
小林 郁恵 (総務部)
榊原 貴子 (学生支援部)
塩田訓仁子 (総務部)
富士澤 香 (総務部)
榎原みちほ (総務部)
水野 友絵 (総務部)

[寮監]

柏樹 貴弘 (貫練学寮)
佐々木えみ (自灯学寮)

[学習支援アドバイザー]

渡邊 温子
[PD研究員(真宗総合研究所東京分室)]
稲葉 維摩
2017年4月1日付 (各通)

昇格

[教授]

田中久美子 (文学部)
富岡 量秀 (短期大学部)
野村 明宏 (文学部)
福島 栄寿 (文学部)

[准教授]

中野加奈子 (文学部)
西村 美紀 (短期大学部)
山田 恵文 (文学部)
2017年4月1日付 (各通)

飯田剛史先生を偲んで



2016年8月20日、飯田剛史先生が66歳で逝去されました。

飯田先生は、同志社大学文学部を卒業後、京都大学の大学院修士課程・博士課程での学びを終えられ、1981年から富山大学で教鞭をとられておりました。富山大学退職後の2009年4月に、本学へ教授として着任され、2015年から特任教授を

務められておりました。また、飯田先生は2016年の秋の叙勲において、従四位瑞宝中綬章を授章されています。

飯田先生は難病を抱えておられました。周りの教員や学生たちも、そのことに長らく気づかなかったのです。周りの者が気づかないほど、先生は学生の指導や研究に熱心にいそしんでおられました。

昨年の新学期が始まって間もない頃、その先生が「休職したい」とおっしゃいました。そのため、先生が指導されておられた学生たちは、他のゼミに所属を移すことになりました。しかし、先生の研究への熱意は衰えることはありませんでした。先生は、これまでの研究成果の出版に向けた歩みを進めることを決意しておられる、そのように私たちはお見受け

いたしました。

まだまだ著作などを通して、私たちも先生から教えることができると思っておりましたが、夏の暑い日、突然の訃報を聞き大変驚きました。先生のご葬礼は、歴史あるキリスト教会で執り行われました。

ご指導いただいていた学生たちにとっても突然のことであり、言葉にならないほどの衝撃を受けており、お通夜のときには目に涙をため、先生のお顔を拝し、最後のお別れを告げておりました。

どうぞ天国から私たちの学びをご指導ください、そして安らかにお休みください。先生、ありがとうございました。

大谷大学教授 滝口 直子

安富信哉名誉教授を偲んで



2017年3月31日の早朝に、安富信哉先生が73歳でご逝去されました。真宗大谷派教学研究所所長、東方仏教徒協会（EBS）事務局長に加えて、新潟県村上市の光濟寺の住職を務められている最中のことでした。

先生は、早稲田大学の英文学専修卒業後、大谷大学の修士課程で真宗学を学び始め、1976年4月に助手となられ、

2013年に特別任用教授のポストを退くまで、37年間、教育と研究活動に尽くしてこられました。

先生の研究業績は、この小さい枠に収まらない程数多く幅広いものになりますが、親鸞の思想の解明を中心に研究を進められました。先生は、親鸞自身の信心理解に重点を置き、『親鸞と危機意識』『親鸞・信の構造』『聞一私の真宗学』『親鸞・信の教相』など、多くの研究書を執筆されました。

それに加えて、親鸞の直接的背景にも目を向けられ、法然の『選択集』と聖覚の『唯信鈔』についての著書を公にされました。

更に親鸞の浄土真宗を近代日本で再生しようとした清沢満之についても研究を行い、『清沢満之と個の思想』と『近

代日本と親鸞一信の再生』を単著として、または『清沢満之—その人と思想—』と『清沢満之集』を編著として残されました。

先生の教育業績はこれにまして多大でありました。安富先生のゼミに所属していた学部と大学院の卒業生は、500人以上にもなります。私自身もちょうど14年間、ご指導にあずかる縁をいただきました。先生が常に私たちに対して敬語を用いて、一人一人に相互敬愛の精神に基づいて接して下さったことが、最も印象に残っています。

私たち同窓生は、先生より大きな願いをかけられています。それに応えていくことが先生の学恩を報じることになるでしょう。

大谷大学講師 コンウェイ マイケル J.

クラブ紹介



春合宿にて、第3学年12名

アメリカ民謡研究部

卒業生の皆様、こんにちは。大谷大学アメリカ民謡研究部です。私達は現在第1学年11名、第2学年12名、第3学年12名の計35名で活動しています。私たちアメリカ民謡研究部は月、木曜日の週2回の部会を中心にそれぞれバンド活動を行っています。

私達はブルーグラスというジャンルの音楽を演奏しており、使用する楽器はアコースティックギターやウッドベースといったオーソドックスなものから、バンジョーやマンドリン、フィドルといったあまり

馴染みのない珍しい楽器も使用します。

主な活動としては、学内イベントである紫明祭の他に、部内イベントとして毎年学内にて『新歓コンサート』や『七夕コンサート』を開催しており、OB・OGの方々にもお越しいただいております。また、毎年12月には学内講堂にて第3学年の集大成となる『定期演奏会』を開催しております。さらに、近年では学外からもお声かけをいただくようになり、大学近辺のイベントに出演させていただく機会が多くなりました。

多くの人にとってブルーグラスというジャンルは、あまり聞きなれないものだと思いますが、学内・学外の活動を通して少しでもブルーグラスの魅力を伝え、また部員の練習の成果を見ていただけたらと思います。

私達、アメリカ民謡研究部は昨年創部50周年を迎えました。歴代の先輩方から受け継いできた伝統を守り、これからも部員一同活動に励んで参ります。

今後ともアメリカ民謡研究部をよろしく願います。

アメリカ民謡研究部 部長 岸本 なつめ

教育振興資金(募金)への御礼

大谷大学・大谷大学短期大学部では、教育研究環境の一層の充実を図るために「教育振興資金局」を設置し、募金活動を行っています。このたびはご協力いただき誠にありがとうございます。ご寄付いただきました資金は、教育・研究の充実を図るための環境整備に充ててまいります。今後も引き続き、募金のお申し込み受け付けを行っておりますので、ご支援賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2016年8月1日から2017年7月31日までの間に、ご寄付をいただきました方々のご芳名は次のとおりです。厚く御礼申し上げます。

(2016年8月1日～2017年7月31日) ◆総数 61件 ◆寄付金総額 10,190,000円

(内訳)

2016年度分(敬称略)(2016年8月1日～2017年3月31日)

相場 久男(富山県) 安達由美子(大阪府) 板倉 昭二(京都府) 鶴井 浩(愛知県) 小野内悦二郎(京都府) 小袋 雅文(福岡県)
熊野美喜子(富山県) 甲田 譲二(静岡県) 佐々木ひとみ(新潟県) 谷川 修真(広島県) 月輪 融(石川県) 土橋 賢治(大阪府)
春國 文春(岐阜県) 藤本 浄信(島根県) 森井 雅士(兵庫県) 吉川 昌子(滋賀県)
同窓会青森支部(青森県) 有限会社 石間企画事務所 代表取締役 石間 裕(東京都)
公益社団法人 大谷保育協会 理事長 朝倉 益光(京都府) 宗教法人 了因寺 代表 吉岡 康裕(千葉県) 匿名(個人19名 法人2件)

・件数 41件
・寄付金総額 9,680,000円

2017年度分(敬称略)(2017年4月1日～2017年7月31日)

浅田 純(長崎県) 小野 貴史(神奈川県) 角田 信季(福島県) 川端 章道(長崎県) 中原 浩治(兵庫県) 船山 義弘(山形県)
松浦 清顕(大阪府) 水野 朋人(三重県) 匿名(個人9名 法人3件)

・件数 20件
・寄付金総額 510,000円

※本学は文部科学大臣から、特定公益増進法人の証明(所得控除制度)、並びに税額控除に係る証明(税額控除制度)を受けていますので、寄付者の選択により、どちらか一方の税法上の減免税措置を受けることができます。

※キャンパス総合整備・新教室棟建築資金としてご寄付をいただいた方のお名前については、別途寄付者名簿を作成する予定です。

【お申し込み/お問い合わせ先】教育振興資金事務局

京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内 TEL: 075-411-8124

2017年度後期 大谷大学「生涯学習講座」のご案内

大谷大学では、本学の知的財産を広く一般社会に公開するため、生涯学習講座を開講しています。

2017年度後期は、本学の研究領域を深化させながら学んでいく「開放セミナー」、本学の研究領域を分かりやすく学ぶ「紫明講座」を行います。ぜひ、母校大谷大学で生涯学習講座をご受講ください。お待ちしております。

開放セミナー

講座名	講師	開講日・時間	定員	会場	受講料	申込締切
シリーズ 親鸞の和讃に学ぶ ①総論	一楽 真 大谷大学 教授	11月 1日(水)・11月15日(水) 11月29日(水) 時間 17時30分～19時00分	100名 (先着順)	大谷大学 真宗総合学術センター「響流館」 3階 メディアホール	4,000円 (税込)	10月11日(水)
あらためて 忠臣蔵 一祇園一カ花舞台	沙加戸 弘 大谷大学 名誉教授	10月 5日(木)・10月12日(木) 10月19日(木)・10月26日(木) 11月 2日(木)・11月 9日(木) 時間 18時00分～19時30分	100名 (先着順)	大谷大学 真宗総合学術センター「響流館」 3階 メディアホール	8,000円 (税込)	9月21日(木)

紫明講座

講座名	講師	開講日・時間	定員	会場	受講料	申込締切
シリーズ 人物からみた仏教 ①善財童子の求法の旅 一華厳経物語り	織田 顕祐 大谷大学 教授	10月 5日(木)・10月12日(木) 10月19日(木) 時間 10時40分～12時10分	100名 (先着順)	大谷大学 真宗総合学術センター「響流館」 3階 メディアホール	4,000円 (税込)	9月21日(木)
英国貴族の暮らし 一英国流「人とするか」を考 える	村瀬 順子 大谷大学 教授	11月 7日(火)・11月21日(火) 12月 5日(火) 時間 16時00分～17時30分	100名 (先着順)	大谷大学 真宗総合学術センター「響流館」 3階 メディアホール	4,000円 (税込)	10月17日(火)
現代の貧困 一差別・社会的排除と社会参 加	志賀 信夫 大谷大学 任期制助教	11月30日(木)・12月 7日(木) 12月14日(木) 時間 18時00分～19時30分	100名 (先着順)	大谷大学 真宗総合学術センター「響流館」 3階 メディアホール	4,000円 (税込)	11月 9日(木)
やさしい哲学 一死と幸福をめぐる	西尾 浩二 大谷大学 学習支援主任 アドバイザー/非常勤講師	1月13日(土)・1月20日(土) 1月27日(土) 時間 10時00分～11時30分	100名 (先着順)	大谷大学 真宗総合学術センター「響流館」 3階 メディアホール	4,000円 (税込)	12月13日(水)

【パンフレット請求・申込方法】

*パンフレットの送付を希望される場合は、①～④をご記入のうえ、以下の申込・お問い合わせ先へハガキ・FAX・E-mailのいずれかでご連絡願います。

①氏名・フリガナ ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④生涯学習講座パンフレット送付希望

*受講ご希望の方は、(ア)～(ク)を明記のうえ、ハガキ・FAX・E-mailのいずれかでお申込ください。

(ア)氏名・フリガナ (イ)郵便番号・ご住所 (ウ)電話番号 (エ)生涯学習講座申込 (オ)講座名 (カ)年齢 (キ)性別 (ク)職業

*①～③ならびに(ア)～(ウ)の個人情報は、手続書類や今後の講座の案内送付のために使用いたします。また、(カ)～(ク)は、今後の講座企画の参考データとして利用いたしますので、差支えない範囲でご記入ください。

*申込が多数の場合、申込締切日以前であっても、受付を終了する場合があります。あらかじめご了承ください。

【申込・お問い合わせ先】

大谷大学 教育研究支援課 MU係

〒603-8143 京都市北区小山上総町 電話 (075) 411-8161 FAX (075) 411-8162 E-mail o_semi@sec.otani.ac.jp

《2017（平成29）年度 大谷大学博物館開館情報》

●特別展 東本願寺と徳川幕府

会 期 10月13日（金）～11月28日（火）
 休 館 日 日曜日・月曜日
 ※11月20日（月）、26日（日）、27日（月）は開館
 開館時間 10：00～17：00（入館は16：30まで）

●冬季企画展 日下無倫と楠丘文庫（仮）

会 期 2018年1月9日（火）～2月10日（土）
 休 館 日 日曜日・月曜日
 開館時間 10：00～17：00（入館は16：30まで）

大谷大学博物館 〒603-8143 京都市北区小山上総町 電話：075-411-8483
http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

ミュージアムグッズ販売中

博物館が所蔵している貴重な資料をデザインしたグッズを販売しています。各種行事等にご利用ください。地方発送等も承ります（送料別）。グッズ詳細は、大学ホームページで確認できます。http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

お問い合わせ・お申し込みは博物館（電話：075-411-8483）まで。

◆「ポストカード」



（左上）貝葉、（左下）京大
 絵図、（中央）蓮如上人詠
 草、（右上）北京版西藏大
 蔵経、（右下）打敷
 1枚 50円
 （5枚お買い上げで200円）

◆「手ぬぐい」



中国古印の印面をモチ
 ーフにデザイン
 1枚 850円

◆「ミニタオルハンカチ」



打敷をデザインに使用
 ピンク・ブルー各色
 1枚 400円
 （2枚以上お買い上げで、
 2枚目から350円）

◆「ミニ便箋」



貝葉資料を包装していた
 更紗よりデザイン
 赤・青各色 1冊 350円

◆「プレゼント用ケース」

1個 50円

ゼミ・クラス等同期会OB・OG会



2008年卒業（16期生）宮崎ゼミ同期会（2016.7.9～10）
今年は長野で開催できました。久しぶりにほぼ全員がそろって賑やかな時間でした。



昭和51（1976）年入学 大谷大学育英学寮同期会 in 札幌（2016.7.31～8.1）
1976（昭和51）年に入学した育英学寮の寮生で同期会を行いました。今回は北海道の卒業生が幹事を務め、札幌での開催となりました。別院にもお参りできました。



文学部史学科東洋史学分野藤島ゼミ1987-1990年卒業生合同同期会（2016.8.20）

次回は、島根県内の温泉と美術館ツアーが希望に挙がりました。3年以内の実施が目標です。さて、結果はいかに？



下鴨学寮43年入寮同窓会（2016.8.22～23）
大学時代の話に花が咲き楽しい一時を過ごしました。来年は全員元気で再会することを確認して閉会いたしました。



1978～1983年入学 映画研究部OB・OG会（2016.8.27）
3年ぶりのOB・OG会でしたが今回にもぎやかに楽しくすごすことが出来ました。また3年後に集まりましょう。



浄影会（古田和弘ゼミ同窓会）（2016.8.27）
古田先生をお迎えしての同窓会。おいしいお酒と水だきを頂きながら、久しぶりに恩師と旧友に再会して、大いに盛り上がりました。



道交会（柔道部OB・OG会）（2016.8.28）
残暑厳しい中、17名の会員が集まり、総会後の懇親会も盛況に終わりました。次回総会には、より多くの参加をお待ちします。



1966（昭和41）年入寮 育英学寮 同期会（2016.8.31）
育英寮入寮50年の節目として、毎年各地で開催している同期会を京都で行いました。大学見学のち、育英寮まで歩きました。懐かしさと同時に、今では使われなくなり、蔦の絡まった建物を見て、いずれ壊されてしまうと思うと一抹の寂しさを覚えました。



1959（昭和34）年入学 岩見至教授フランス語クラス会（2016.9.1）
岩見至教授が逝去され、淋しいクラス会でした。クラス会一同は今後共毎年開催する事を確認して、再会を楽しみにしています。



剣道部OB・OG会（講武会）（2016.9.3）
今年の講武会は、小笠原正記先輩の八段昇段の祝賀会として開催しました。例年以上の参加を得て、にぎやかな会になりました。来年は50周年記念の会を予定しています。OB・OG多数の参加をお待ちしています！



十練会（1989年入学 貴練学寮 10期生同窓会）（2016.9.4）
これまで北陸、東北、九州など各地で開催しました十練会ですが、さる9月4日に寮生出会の地、京都にて開催されました。



1965（昭和40）年入学 仏教科・国文科同期会（2016.9.6）
尋源館（赤レンガ）の講堂で物故者追悼法要を勤め、会議室にて谷大の現況説明を聞き学内見学を行なった。五十余年の年月を感じた。その後、会場を嵐山の旅館に移し懇親会を開催、旧交を温ため再会を誓った。



1973年～1979年卒業 漫画研究部 OB・OG会（2016.9.18～19）
42th漫画研究会OB・OG会。2年振りの同窓会は会員の故郷、岸和田で。迫力あるだんじり祭りを間近に見学し全員満喫。1日で2万歩歩いてお互いびっくりしました。

<p>西尾市 岩瀬文庫蔵 赤瀬知子 編著 定価 五、〇〇〇円十税</p>	<p>名所和歌抄出</p>	<p>延塚知道 著 定価各二、八〇〇円十税</p>	<p>講讚 浄土論註 第一巻～第四巻</p>	<p>帰命の生活 水島見一 著 定価 一、四〇〇円十税</p>	<p>苦勞はいいもんや 水島見一 著 定価 一、八〇〇円十税</p>	<p>如來に芝居させられていた人生 水島見一 著 定価 一、六〇〇円十税</p>	<p>臘扇（ろうせん） 水島見一 著 定価 二、三〇〇円十税</p>	<p>清沢瀆之開敬録 一生死を超える道</p>



混声合唱団OB・OG総会（2016.9.24）
2018年の創団50周年記念演奏会に向けた準備について話し合いました。



大谷大学卓球部創部85周年ならびに後援会創設40周年
(2016.9.24～25)

創部85周年、後援会創設40周年を迎えました。祝賀会には木越学長にご臨席賜わり、顧問の三木先生より記念講演をいただきました。



弓道部OB・OG総会 (2016.10.1)

去る10月1日、OB・OG並びに現役諸氏の尽力により、例年の如く大谷大学弓道部OB・OG会(直心行射会)を開催いたしました。



人文情報学科サロン'16 懇親会(同窓会) (2016.10.2)

今年も無事に人文情報学科サロンを開催することができました。今回は第一部の講演会に文楽の人形遣いである吉田襄二郎様到人形浄瑠璃の魅力をご講演いただきました。そして、第二部では去年と同様に人文情報学科の卒業生と在学生との交流会を行い、親睦を深めました。



1968(昭和43)年卒業 短期大学部仏教科同期会 (2016.10.3)

2年振りに京都・同期生の寺院で物故者(8名)追弔会・同期会・懇親会(別会場)を10月3日開催、参加14名(内3名卒業以来初の参加)、楽しい一時を過ごしました。



大谷大学国文学会 懇親会 (2016.10.8)

大谷大学国文学会講演会の後に開かれた懇親会では、本学教員も交えて互いの近況や思い出話に花が咲きました。



1984年入寮 第5回大谷大学知真学寮第一期生同期会 (2016.10.17)

4年連続で第5回目の同期会を京都で開催しました。総勢12人の参加です。みんないい顔で京都の夜を堪能しました。来年は名古屋で開催です。



谷雪会（スキー競技部 OB・OG会）（2016.10.29）
現役1名を含むOB、OG合わせて16名が集まり、京都木屋町で開催されました。来年も元気で会いましょう。



短期大学部 国文科1期生 同期会（2016.11.8）
久方ぶりに大谷大学のキャンパスを訪れ、少人数ながら有縁の絆を再確認し、互いの健康を願い、再会を約束しました。



大学院98年度入学以降 河内ゼミ同期会（留学生の来日に際し）
（2016.11.11）
廈門大学で教鞭をとっている林観潮君の来日に際し、久しぶりに集まりました。昔話に花が咲き、有意義な会となりました。



1972（昭和47）年卒業 短期大学部幼児教育科同期会（2016.11.17～18）
卒業後4回目の同期会を横浜で行いました。顔を合わせたとたん45年の年月を超え、学生時代に戻り、話に花が咲きました。



第2回大谷大学男声合唱団OB有志の会（2016.11.20～21）
真宗本廟両堂御修復完了奉告法要・男声合唱演奏に参加し、その夜有馬温泉で、男声合唱団OB有志の会を開催しました。



1979（昭和54）年卒業 廣瀬泉ゼミ同期会（還暦記念）
（2016.11.20～21）
5年ぶりの同期会の開催。還暦を迎え、それぞれの現況の報告に心のみ元気をもらう。感謝よし頑張るぞ！



1989（平成元）年卒業 短期大学部幼児教育科同期会（2016.11.27）
卒業して28年。佐賀枝先生・斎藤先生・豊住先生が出席で合計30名が集まりました。次回は2年後の卒業30年後に行いたいです。



2008～2010年卒業 東館紹見ゼミ同期会（2016.12.23）
3学年合同で企画しました。少人数の会となりましたが、遠方からの出席者もあり、先生を囲んでの楽しい夜となりました。



短仏2015年卒業生同期会 (2017.1.29)
卒業から2年。西本先生にお越しいただき、短仏時代の思い出などを夜遅くまで語り合う機会となりました。



大谷大学バドミントン部 追いコン (2017.2.4)
今年は10名程のOB・OGさんに追いコンにご参加頂きました。来年もより多くの皆様のご参加お待ちしております。



池田佳和先生の最終講義・謝恩会 (2017.2.11)
2008年から人文情報学科の教授として活躍された先生の最終講義「ICTの進歩と共に歩んで」では、先生の通信との出会いやステイプ・ジョブスとのニアミスなども披露されました。今後もお元気で人生をお楽しみください。



桂華淳祥先生を囲む会 (2017.2.11)
桂華先生とご縁のある方々を中心として、先生の退職を記念した囲む会をグランヴィア京都にて開催しました。



男声合唱団OB会 コールリンデンクラブ 総会・懇親会 (2017.2.15)
今年も現役生の定期演奏会を期に集まりました。今年も、限りない願いに支えられ育まれ叱咤されて、私たちの歩み、ハーモニーがあることを、改めて心に刻みました。



育英学寮74年入寮 同期会 (2017.2.20)
育英学寮74入寮生第2回同窓会を開催しました。3名の奥様方にお会いできました。2年後、さらに増えることを期待しています。



自灯学寮50周年記念同窓会 (2017.2.25)

創立以来の同窓生約250人。世代は異なるものの自灯学寮で過ごした思い出を交流することができました。



1995、1996年卒業 沙加戸ゼミ 同窓会 (2017.2.25)

20年ぶりのゼミ開講！ 大学生に戻り「いのちに会う」とは、を先生よりご教授。人生の道標を胸に刻むことができました。



1998年卒業 短期大学部仏教科 同期会 (2017.2.25)

卒業後約20年3名の先生を含む19名の参加、また二次会には現学長も来て頂き懐かしく楽しい有意義な時を過ごす事が出来ました。



大谷大学バドミントン部 OB・OG会 (2017.3.4)

今年も多くのOB、OG様にお集まり頂きました。来年も行いますのでご参加お待ちしております。



大谷大学短期大学部幼児教育科花の七期生クラス会 (2017.3.5)

還暦祝同窓会から3年。今回は松江宍道湖畔ホテル白鳥に15名が集い思い出深いひとときを過ごしました。次回は金沢で集いま～す。



1975年入学スカウト部同期会 (2017.3.23～24)

還暦60歳のスカウト部同期会を開催しました。生きている仲間全員集まりました。風貌は変わりましたが、根性は昔のままでした。楽しい一時を過ごしました。



昭和52年(1977年)卒業 短期大学部国文科 2Aクラス 同期会 (2017.4.7～8)
還暦同窓会は、初めての泊旅行で和歌山県白浜温泉へ。会う前から二十才の頃に戻り、グループラインでもできました。日々更新中!



大谷大学史学科 昭和51年(1976年)入学 フランス語1-Gクラス同窓会(還暦記念) (2017.4.16)
卒業して早くも48年の月日が経ち私達は還暦を迎える年齢となりました。46名中12名の参加をいただき鍋を囲んで旧交を温め、次回、2年後の再会を約束しました。



大谷大学(昭和32年入学、昭和36年卒業)同期会 (2017.5.12～13)
大谷大学(36年)同期会を5月12、13日大谷大学と雄琴温泉湯元館にて開催26名参加し、傘寿記念の集いとして楽しい同期会でした。



大谷大学育英学寮 昭和32(1957)年入寮同志の会 (2017.5.13～14)
2017年5月13日～14日 参加者8名(浄土真宗の歴史を訪ねて)安楽寺、安養寺、龍谷ミュージアムを廻る。



大谷大学野球部拡大同窓会(昭和45～50年度卒業) (2017.5.23)
平成17年以降2度目の開催となりました。それぞれ久しぶりの再会に「誰かな」と思ったり、すぐ、「変わらないなあ」と。大方の集合で藤枝・富樫先輩を偲ぶ会で開会。そして懇親会へ。改めて先輩方の個性を実感。天衣無縫? 案内に賛同、参加、感謝です。



2011年卒業 真宗学科加来雄之ゼミ 同期会 (2017.6.3)
加来先生を慕う多くの友と再会することができ嬉しく思います。来年も開催できることを祈っております。



1982(昭和57)年入寮 自灯学寮同期会 (2017.6.3～4)
3年ぶりの同窓会で学生時代に一気にもどれました。34年ぶりの寮歌を皆で歌って最高! 次回はまた3年後に。



大谷大学剣道部講武会 (2017.6.4)
剣道部の活動が再開して今年は50周年を迎えました。6月4日に約100名の参加を得て、まず追弔会を勤め、その後に記念の稽古会ならびにパーティを開催しました。旧交を温めるとともに、次の100周年に向けての継続を願う会となりました。



1974 (昭和49) 年入学 短期仏教科 同期会 (2017.6.6)
新緑の眩しい中、先生を含め14名の参加、2時間があっというまに過ぎ去り、次回は京都を離れての開催と決まりました。



1968 (昭和43) 年卒業 短期大学部仏教科同期会 (2017.6.6～7)
親鸞聖人御旧跡 (上越) を訪ねる1泊2日、宇奈月温泉で懇親会を開きました。参加者16名 (内奥様4名) でした。



1968年・1969年入寮・育英学寮同期会 (2017.6.7)
第3寮歌を開会に斉唱し、仲間を偲び閉会は第1寮歌で締め「くめ甘酒を祝杯に」と祇園の夜を青春に反り謳歌し来年の再会を誓って散会。



第41回 浄眼洞 (山田亮賢先生門下生の会) 一夜研修会 (2017.6.10～11)
今年は、昨年命終された同人一色順心氏の一周忌を記念して、同氏の地元岐阜で開催しました。「華誦 (けどく)」という追悼文集も発行しました。ご希望の方は1977年学部卒の赤尾まで。



1964 (昭和39) 年卒業大谷大学社会学科クラス会 (2017.6.13～14)
札幌、鹿児島の間、東京で開催しました。加齢で欠席も多くなりましたが、夫婦同伴で12名の出席を得て大いに盛り上がりました。



大谷大学知真学寮第一期生同期会 in 名古屋 (2017.6.26)
これで5年連続の開催となりました。毎回十人ほどですが、時間を見つけて参加してくれる仲間も増えてきました。来年は京都での開催です。



2006年卒業 一楽ゼミ同期会 (2017.7.3)
去る、7月3日同期会並びに一楽先生のご還暦祝いを執り行いました。卒業以来、集まった友人とも和やかな雰囲気でした。



大谷大学貴練学寮第3期生同期会 (2017.7.3)
久しぶりの同期会。寮監先生、寮母さん、有難うございました。北海道から九州まで沢山の参加ありがとう！ とても楽しかったね。またぜひやりましょう！！



大谷大学体育会 バスケットボール部 OB・OG会 (2017.7.8)
7/8 (土) に第42回大谷大学バスケットボール部OB・OG会を開催しました。大会では男子部の現役とOBが延長戦に突入する熱戦を繰り広げ、108対98でOBが勝利しました。懇親会は、新校舎棟「慶間館」にて現役とOB・OGが交流し、OB・OGから5部昇格を果たした男子部にエールが送られました。



2011年卒業 脇中ゼミ同期会 (2017.7.8)
脇中ゼミ同窓会を行いました。出席者は7名でしたが、近況報告をしあって、とても楽しい時間を過ごしました。また機会があれば、同窓会を開催したいと考えております。ありがとうございました。



宮崎ゼミ16期生同期会 (2008年卒業) (2017.7.8～9)
卒業して10年、思い出の奈良を先生と巡りました。



2007年入寮 貴練学寮 同期会 (2017.7.22)
谷専修君の一周忌を機縁とし、全国各地から専修君の実家がある福岡に集まり、法要を勤め、その後、原鶴温泉に会場を移し卒業後初の同窓会を開催しました。

1970年前後卒業 能楽部OB・OG会 (2016.9.24～25)
2016年9月24～25日湖西キャンパスセミナーハウスに於て谷大能楽部(1969～72年卒業生)のOB会を12名参加で開催。

硬式野球部 OB会 (2017.6.4)
OB会総会を開催し、総会に12名、懇親会に18名が集いました。卒業してから初めて参加された先輩もおられ、賑やかに和やかに時間を過ごしました。来年も開催します。

ゼミ・クラス等同期会、OB・OG会開催一覧

開催日時	会 合 名	開催日時	会 合 名	開催日時	会 合 名
2016. 7. 9(土)～10(日)	2008年卒業(16期生) 宮崎ゼミ同期会	2016.10.17(月)	1984年入寮 第五回大谷大学知真学寮第一期生同期会	2017. 4.16(日)	大谷大学史学科 昭和51年(1976年)入学 フランス語1-Gクラス同窓会(還暦記念)
2016. 7.31(日)～8. 1(月)	昭和51(1976)年入学 大谷大学育英学寮同期会 in 札幌	2016.10.29(土)	谷雪会(スキー競技部 OB・OG会)	2017. 5.12(金)～13(土)	大谷大学(昭和32年入学、昭和36年卒業)同期会
2016. 8.20(土)	文学部史学科東洋史学分野藤島ゼミ1987-1990年卒業生合同同期会	2016.11. 8(火)	短期大学部 国文科1期生 同期会	2017.05.13(土)～14(日)	大谷大学育英学寮 昭和32(1957)年入寮同志の会
2016. 8.22(月)～23(火)	下鴨学寮43年入寮同窓会	2016.11.11(金)	大学院98年度入学以降 河内ゼミ同期会(留学生の来日に際し)	2017. 5.23(火)	大谷大学野球部拡大同窓会(昭和45～50年度卒業)
2016. 8.27(土)	1978～1983年入学 映画研究部 OB・OG会	2016.11.17(木)～18(金)	1972(昭和47)年卒業 短期大学部 幼児教育科同期会	2017. 6. 3(土)	2011年卒業 真宗学科加来雄之ゼミ 同期会
2016. 8.27(土)	浄影会(古田和弘ゼミ同窓会)	2016.11.20(日)～21(月)	第2回大谷大学男声合唱団OB有志の会	2017. 6. 3(土)～4(日)	1982(昭和57)年入寮 自灯学寮同期会
2016. 8.28(日)	道交会(柔道部OB・OG会)	2016.11.20(日)	1979(昭和54)年卒業 廣瀬果ゼミ 同期会(還暦記念)	2017. 6. 4(日)	硬式野球部 OB会
2016. 8.31(水)	1966(昭和41)年入寮 育英学寮 同期会	2016.11.27(日)	1989(平成元)年卒業 短期大学部 幼児教育科同期会	2017. 6. 4(日)	大谷大学剣道部講武会
2016. 9. 1(木)	1959(昭和34)年入学 岩見至教授 フランス語クラス会	2016.12.23(金)	2008～2010年卒業 東館紹見ゼミ同期会	2017. 6. 6(火)	1974(昭和49)年入学 短期仏教科 同期会
2016. 9. 3(土)	剣道部OB・OG会(講武会)	2017. 1.29(日)	短仏2015年卒業生同期会	2017. 6. 6(火)～7(水)	1968(昭和43)年卒業 短期大学部 仏教科同期会
2016. 9. 4(日)	十練会(1989年入学貴練学寮 10期生同窓会)	2017. 2. 4(土)	大谷大学バドミントン部 追いコン	2017. 6. 7(水)	1968年・1969年入寮・育英学寮同期会
2016. 9. 6(火)	1965(昭和40)年入学 仏教科・国文科同期会	2017. 2.11(土)	池田佳和先生の最終講義・謝恩会	2017. 6.10(土)	第41回 浄眼洞(山田亮賢先生門下生の会)一夜研修会
2016. 9.18(日)～19(月)	1973年～1979年卒業 漫画研究部 OB・OG会	2017. 2.15(水)	男声合唱団OB会 コールリンデンクラブ 総会・懇親会	2017. 6.13(火)～14(水)	1964(昭和39)年卒業大谷大学社会学科クラス会
2016. 9.24(土)	混声合唱団OB・OG総会	2017. 2.20(月)	育英学寮74年入寮 同期会	2017. 6.26(月)	大谷大学知真学寮第一期生同期会 in 名古屋
2016. 9.24(土)	1970年前後卒業 能楽部OB・OG会～25(日)	2017. 2.25(土)	自灯学寮50周年記念同窓会	2017. 7. 3(月)	2006年卒業 一染ゼミ同期会
2016. 9.24(土)	大谷大学卓球部創部85周年ならびに後援会創設40周年	2017. 2.25(土)	1995、1996年卒業 沙加戸ゼミ 同窓会	2017. 7. 3(月)	大谷大学貴練学寮第3期生同期会
2016.10. 1(土)	弓道部OB・OG総会	2017. 3. 4(土)	1998年卒業 短期大学部仏教科 同期会	2017. 7. 8(土)	大谷大学体育会 バスケットボール部 OB・OG会
2016.10. 2(日)	人文情報学科サロン'16 懇親会(同窓会)	2017. 3. 5(日)	大谷大学短期大学部幼児教育科花の七期生クラス会	2017. 7. 8(土)	2011年卒業 脳中ゼミ同期会
2016.10. 3(月)	1968(昭和43)年卒業 短期大学部 仏教科同期会	2017. 3.23(木)～24(金)	1975年入学スカウト部同期会	2017. 7. 8(土)～9(日)	宮崎ゼミ16期生同期会(2008年卒業)
2016.10. 8(土)	大谷大学国文学会 懇親会	2017. 4. 7(金)～8(土)	昭和52年(1977年)卒業 短期大学部国文科 2Aクラス 同期会	2017. 7.22(土)	2007年入寮 貴練学寮 同期会

開催をお世話いただく幹事さんへ

◆「ゼミ・クラス等同期会」「OB・OG会」等を開催されるときは、事前にご連絡ください!

事務局は、大谷大学「尋源館」2階にあります

大谷大学同窓会本部事務局 (大谷大学総務部「校友センター」内)

<連絡先>TEL:075-411-8124 (直通)

FAX:075-411-8157 (直通)

E-mail:kouyu@sec.otani.ac.jp

※電話・FAX・メール等、ご都合の良い手段でご連絡ください。

◆まずは、開催1か月前までに「同期会届」「OB・OG会届」をご提出ください。

◇「同期会」としてお届けいただくためには、その団体の全対象者にご案内をされていることが前提となります。

◇クラブの「OB・OG会」は、すべての年度の卒業生を対象としてご案内ください。

◇「開催届」の提出と上記の内容を満たしている団体には、通信費の一部として「開催助成費」を補助しています。

◆同窓会本部事務局では、こんなお手伝いができます。

1. 申請により、連絡用名簿・宛名ラベルを提供することができます。

◇「同窓会本部への申請書 提出」より「名簿・宛名ラベルのお届け」までは、1週間～10日程度かかります。(事務の都合上、それ以上かかる場合もございます。)

2. 大学の施設を、同期会の会場として利用できます。

◇授業・大学行事等の関係上、利用できない場合があります。

利用を希望される場合は、日程等を決定する前に、同窓会本部事務局へご相談ください。

3. ホームページ「無盡燈」に開催予定・報告を掲載します。

同窓会報『無盡燈』には、写真とともに開催結果を掲載します。

「ゼミ・クラス等同期会」「OB・OG会」についての詳細は、同窓会本部事務局までお気軽にお問合せください。

本部報告

2017年度 同窓会総会開催【報告】

2017年5月11日（木）午後1時30分より、博綜館第1会議室において、本年度の同窓会総会が開催されました。

議長には福井支部長の今川雅照氏が選出され、各議案について活発な審議をいただき、それぞれ承認を得ました。

1. 2016年度「事業報告」および「収支決算報告」
(下記「収支決算書」参照)
2. 2017年度「事業計画」および「収支予算(案)」
(下記「収支予算書」参照)

3. 大谷大学キャンパス総合整備・新教室棟に係る募金活動について

大学の現況報告の後、大谷大学キャンパス総合整備・新教室棟建築工事の進捗状況と、募金活動についての報告がなされ、ご審議いただきました。寺西龍水同窓会本部事務局長より、各支部ごとの募金目標額と現在の募金達成額の報告がなされ、現時点で募金目標額の約38%であることを説明し、更なる募金活動をお願いしました。

4. 役員の変更について

以下について事務局より提案・報告がなされ、任期満了に伴う全ての役員の変更について、ご審議いただきました。

- ・以下のとおり新任の役員と吉田副会長をはじめとする役員の内任が決定いたしました。役員の内任は、会則第13条により2年間となります。

5. 今後の同窓会活動について

以下について一楽真新理事長より提案・報告がなされ、今後の同窓会活動体制について、ご審議いただきました。

- ・2014年度から2016年度まで、「大谷大学同窓会将来構想委員会準備会」を開催し、同窓会の将来の方向性について議論を進めてきましたが、2016年度をもって発展的に解消し、2017年度以降は新理事長のもとで議論を深めていきたいとの報告がなされました。

6. NPO法人尋源舎の活動について

NPO法人尋源舎の織田顕祐理事長より、尋源舎の現状について報告があり、2017年度については収益事業を休止する決定を行ったことが報告されました。



同窓会総会(博綜館第1会議室)

同窓会役員

総会後に学監・事務局長と総務部事務部長人事異動に伴い、常務理事の交替がありました。7月1日以降の役員は以下のとおりです。

会 長	石橋 義秀 (新)
副 会 長	柴田 達也 (新)
副 会 長	吉田 法純
理 事 長	一楽 真 (新)
常務理事	井上 恵二 (新)
常務理事	北島 顕信
常務理事	速水 馨
理 事	大音 祖瑛
理 事	奥村 豊
理 事	加藤 隆昭

2016年度 大谷大学同窓会本部収支決算書

【収入の部】 (単位 円)	
科 目	決算額
1. 前年度繰越金	9,585,044
2. 会 費	24,558,000
会費(1)	1,368,000
会費(2)	23,190,000
3. 入 会 金	3,865,000
4. 寄 付 金	1,662,000
5. 同窓会基金取崩収入	0
6. 雑 収 入	836,869
7. 同窓会運用資金	25,000,000
合 計	65,506,913

【支出の部】 (単位 円)	
科 目	決算額
1. 事 業 費	17,319,429
本部事業費	4,102,693
支部事業助成費	9,478,693
同期会・OB会等開催助成費	520,000
学生会助成費	500,000
新入会員歓迎費	2,718,043
2. 刊 行 費	3,339,832
無盡燈刊行費	2,611,014
印刷製本費	728,818
3. 事 務 費	3,668,837
本部事務局費	5,271
活動費	350,000
通信費	3,313,566
4. 旅 費	6,597,632
5. 会 議 費	1,089,890
6. 委 託 費	1,869,347
7. 雑 費	361,129
8. 同窓会基金繰入支出	161,621
9. 同窓会活性化準備金	1,423,536
10. 同窓会運用資金繰入支出	22,000,000
11. 予 備 費	0
合 計	57,831,253

2017年度 大谷大学同窓会本部収支予算書

【収入の部】 (単位 円)	
科 目	予算額
1. 前年度繰越金	7,675,660
2. 会 費	23,190,000
会費(1)	1,290,000
会費(2)	21,900,000
3. 入 会 金	3,650,000
4. 寄 付 金	1,000,000
5. 同窓会基金取崩収入	0
6. 雑 収 入	384,340
7. 同窓会運用資金	22,000,000
合 計	57,900,000

【支出の部】 (単位 円)	
科 目	予算額
1. 事 業 費	12,290,000
本部事業費	4,290,000
支部事業助成費	3,800,000
同期会・OB会等開催助成費	600,000
学生会助成費	500,000
新入会員歓迎費	3,100,000
2. 刊 行 費	3,615,000
無盡燈刊行費	2,860,000
印刷製本費	755,000
3. 事 務 費	4,010,000
本部事務局費	30,000
活動費	380,000
通信費	3,600,000
4. 旅 費	7,130,000
5. 会 議 費	1,530,000
6. 委 託 費	2,200,000
7. 雑 費	380,000
8. 同窓会基金繰入支出	120,000
9. 同窓会活性化準備金	1,500,000
10. 同窓会運用資金繰入支出	25,000,000
11. 予 備 費	125,000
合 計	57,900,000

理事 菅原 信顕
 理事 高木 文善 (新)
 理事 竹園 関
 理事 原 直樹
 理事 藤原 憲
 理事 村上 秀磨 (新)
 監事 長谷岡 英信
 監事 藤坂 初裕
 顧問 木越 康
 常務理事 宮崎 健司
 常務理事 岡本 学 (新)
 常務理事 渡辺 啓真
 常務理事 采翠 晃
 常務理事 山田 恵文
 常務理事 中島 弘喜 (新)
 理事 東館 紹見 (新)

「第21回ホームカミングデー」
開催 (報告)



会場前の風景



藤島同窓会長挨拶

「第21回ホームカミングデー」を、学園祭期間中の11月12日(土)に開催いたしました。当日は、名誉教授や、ご退職になられた先生方、専任教員など42名の先生方にお出ましいただき、同窓生ならびに会友の皆様と合わせて約250名のご参加がありました。また、同窓会の役員や支部長もご出席くださり、今回は、海外支部である中国支部の林観潮氏にもお越しいた

だきました。なお、ホームカミングデーの運営には、同窓生9名にもご協力をいただきました。



中国支部の林観潮氏を紹介



恩師との懇談

今年度はイベントとしてスタンプラリー「変わりゆく学舎(まなびや)」を企画しました。スタンプラリーに参加された皆様には、慶問館(1F・2F)に設置されたポイントなどを回って、学内の様子をご覧いただきました。



会場内の風景

また、幼稚園・小学校の教員を目指す教育・心理学科の学生や教職員にも協力をいただき、「おおたにキッズキャンパス」を開催し、ホームカミングデーに来場されたお子様にゲームや工作などを行っ



おおたにキッズキャンパス

てもらいました。

会場内では、同窓会役員ならびに同窓会支部や、支部長よりお贈りいただきましたご当地のお品をご披露し、スタンプラリーに参加された先生方や同窓生の皆様に贈呈させていただきました。名産の数々は、参加された皆様に大変好評を博しました。ご協力くださいました同窓会地域支部の皆様、心より感謝申し上げます。次回も同窓生の皆様のご参加を、心よりお待ちしております。



同窓会役員・支部より提供された特産品



景品交換

また、ホームカミングデーの終了後、今年度の特別企画「われら40代!ここにあり!」と「卒業後3年目の会」を開催いたしました。多くの同窓生の方々にご出席

いただき、同世代同士、意気投合し、盛りあがっていました。



卒業後3年目の会



われら40代! ここにあり!

なお、京都支部が学園祭の模擬店に出店し、手作り念珠の販売を行いました。My念珠を作れるということで、多くの方が来店されました。

当日の様子は、同窓会Facebookをご覧ください。

2016年度「卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会」開催（報告）

2017年3月17日（金）に2016年度「卒業証書ならびに学位記授与式」が挙行され、式典終了後の16時30分よりグランドプリンスホテル京都において、「大谷大学卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会」が開催されました。

この祝賀会は、卒業・修了をお祝いする「祝賀の会」と同時に、「大谷大学同窓会」へのご入会を歓迎する「歓迎会」としての意味を込めて、「大谷大学」と「大谷大学同窓会」が共催する祝宴です。

木越康学長、藤島建樹同窓会長の祝辞の後、今年度の学生支援表彰「菩提樹賞」の表彰が行われま

した。その後、卒業・修了生を代表して文学部歴史学科の樋口雄一さんが挨拶と乾杯の発声を行い祝宴が始まりました。また、短期大学部幼児教育保育科卒業生全員による合唱や、卒業生・教職員有志による寮歌を披露していただき、祝賀会は大変盛りあがりを見せました。



木越学長挨拶



卒業・修了生代表樋口雄一さん 乾杯発声

学生生活も最後となるこの日、一時を惜しむかのように和やかな雰囲気の中、恩師そして友だちとの語らいが続けられていました。



歓談の様子

2016年度 同窓会学生支援表彰「菩提樹賞」の表彰式を行う

3月17日（金）に開催されました「大谷大学卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会」において、同窓会学生支援表彰「菩提樹賞」の表彰が行われました。

この「菩提樹賞」は、同窓会が学術・文化・スポーツ・ボランティア活動などの分野で、顕著な成績や多大な成果を収め、大谷大学の発展に貢献した学生または課外活動団体を表彰し、学生生活の充実に資することを願って贈るものです。

今回は、文化分野で文学部歴史学科ご卒業の太田啓介さんが表彰され、ボランティア分野で短期大学部幼児教育保育科子育て支援ボランティアチームが表彰されました。

太田啓介さんは、在学中様々な将棋の大会で優勝するなど優秀な成績を収められました。幼児教育保育科子育て支援ボランティアチームは、京都市の子育て支援事業に参画すると同時に、各メディアへの広報展開に努めるなど、京都市の取り組みと本学の子育て支援事業の認知度を高めることに尽力されました。



藤島同窓会長より表彰

表彰の後、太田啓介さんと子育て支援ボランティアチームを代表して川嶋友里江さんに、スピーチしていただきました。

今後、太田啓介さんと子育て支援ボランティアチームの方々が一層活躍されることを期待しています。



受賞者の方々

**2017年度「大谷大学・同窓会
全国縦断 夏季八十講」ならびに
支部総会の開催について**

今年度も7月から9月にかけて、「大谷大学・同窓会 全国縦断 夏季八十講」ならびに「支部総会」を全国72支部67会場で開催いたしました。

夏季八十講は、全国に80支部ある同窓会支部と大谷大学とが協働して講演会を開催するもので、同窓生・在學生はもとより広く一般市民にも公開され、地域社会の文化興隆に大きな役割を果たしています。

特に、「福岡支部」・「鹿児島支部」の2支部では、今年度、同窓会が設立母体となるNPO法人「尋源舎」(p.29参照)との共催で、「仏教公開セミナー」として広く市民に開かれて実施されました。



紋別支部



室蘭支部



砂川支部

韓国同窓会を開催

2017年8月26日韓国のソウルにおいて、第2回韓国同窓会が開催

されました。金大植会長・金明珠事務長をはじめとした韓国支部の方々や、現在韓国に留学している本学の学生、本学に留学することを考えている韓国の大学生など16名の方々に出席していただきました。



韓国支部同窓会-1



韓国支部同窓会-2

**支部長・事務局交代等のご紹介
ありがとうございました
よろしくおねがいたします**

- 〈青森支部長〉 高名和丸
(前支部長 高澤暢男)
- 〈宮城支部長〉 阿部章真
(前支部長 白木澤建生)
- 〈秋田支部長〉 平裕
(前支部長 枝川慶信)
- 〈福島県支部長〉 秋月慧
(前支部長 木ノ下秀昭)
- 〈富山支部長〉 大伴修一
(前支部長 井口榮樹)
- 〈飛騨支部長〉 三本昌之
(前支部長 内記浄)
- 〈湖東支部長〉 寺谷覚栄
(前支部長 伊藤正善)
- 〈京都支部長〉 福永荘三
(前支部長 菅原信顕)
- 〈福山支部長〉 藤間祐淳
(前支部長 宮武均)
- 〈広島支部長〉 安本浩樹
(前支部長 寺川大雅)
- 〈大分支部長〉 長久寺徳純
(前支部長 相馬温)
- 〈青森支部事務局〉

東 康 文

(前事務局 園村義誠)

〈三条支部事務局〉

天 兒 悠

(前事務局 宮野 慧)

〈久留米支部事務局〉

木 屋 行 深

(前事務局 梯 津)

新たに設置された支部事務局

〈大垣支部事務局〉

稲 葉 道 文

〈大分支部事務局〉

大 友 和 彦

〈熊本支部事務局〉

小 代 廣 施

支部名の変更

2016年9月11日付で、山城支部を京都支部に変更。

敬 弔

大谷大学同窓会の発展にご尽力賜り、多大な功績を残されました現・元役員および支部長のご逝去について、謹んでご報告申し上げます。

元同窓会副会長

寺林 惇 (てらばやし まこと) 氏

2017年3月15日ご逝去

【履歴】

1982年～2003年 同窓会大阪市支部長 (大阪支部長を含む)

1971年～1992年 同窓会理事

1993年～2002年 同窓会常務理事

2003年～2008年 同窓会副会長

同窓会深川支部長

松岡満雄 (まつおか みつお) 氏

2017年6月29日ご逝去

【履歴】

1991年～ 同窓会深川支部長

前同窓会砂川支部長

高嶋晃寛 (たかしま あきひろ) 氏

2016年12月6日ご逝去

【履歴】

1974年～1997年 同窓会砂川支部長

前同窓会大分支部長

相馬 温 (そうま すなお) 氏

2017年8月2日ご逝去

【履歴】

2011年～2017年 同窓会大分支部長

ここに深甚の謝意を表し、謹んで哀悼の意を表します。

同窓会費の納入について（協力ご依頼）

同窓会事業は、同窓の皆さまにご納入いただく「同窓会費（終身会費と年会費）」と「寄付金」を活動資金として行われています。

同窓会活動に対してご理解とご支援を賜り、会費と寄付金の納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。

1. 同窓会費について

「会員区分」により同窓会費納入の取り扱いが異なっております。まずは、ご自身の会員区分をご確認ください。（会員区分は『無盡燈』の宛名ラベルに記載しています。）

会員区分		ご依頼内容
一般会員	①1990年度以前の卒業・修了生のうち、「終身会員」（以下参照）ではない方	<p>同窓会報『無盡燈』発送時、振込取扱票（振込手数料 無料）を同封し、以下の【A】【B】のいずれかの方法により、会費納入をご依頼しています。</p> <p>【A】毎年、「年会費 3,000円」を納入する。 【B】「終身会費 30,000円」を納入いただき、終身会員に変更する。</p> <p><同窓会費専用 振替口座（郵便局/ゆうちょ銀行）> 口座番号 01020-9-20542 加入者名 大谷大学同窓会本部 ※同窓会報『無盡燈』に同封する「振込取扱票（振込手数料無料）」をご利用ください。 ※振込取扱票には、「振込人のご住所・氏名」「卒業・修了年、学部・学科」を必ずご記入ください。</p>
終身会員	<p>①1991年度以降の卒業・修了生のうち、卒業・修了年時の学費納入時、「終身会費30,000円」を納入した方</p> <p>②1990年度以前の卒業・修了生のうち、「<u>終身会費30,000円</u>」を納入した方</p>	<p>寄付金の納入に、ご協力をお願いいたします。</p> <p style="text-align: right;">（以下参照）</p>

2. 寄付金について

同窓会報『無盡燈』発送時、振込取扱票（振込手数料 無料）を同封し、寄付金の納入をお願いしています。ぜひ、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

<お問い合わせ先>

大谷大学同窓会本部

京都市北区小山上総町（大谷大学総務部校友センター内）

電話 075-411-8124 Fax 075-411-8157

E-Mail kouyu@sec.otani.ac.jp

NPO法人「^{じんげんしゃ}尋源舎」について

NPO法人「^{じんげんしゃ}尋源舎」は、同窓会が設立母体となって、2006年12月に設立した、仏教の公開を目的とした特定非営利活動法人です。尋源舎は、皆さまからの賛助金（一口3,000円）で活動を行っています。

お問い合わせは、大谷大学同窓会本部（TEL：075-411-8124）まで。



同窓通信

「感謝と報恩」

小笠原 正記

(1987年文学部真宗学科 卒業)

私は昨年5月幸運にも剣道八段に合格した。小学3年生から剣道を始め、その多くの稽古場が大谷大学であった。中学生時、兄に連れられ大学道場に初めて稽古に伺った。当時、現部長である一楽先生も大学生であり、おおいに鍛えていただいた。学生時代は7名の同期に恵まれ、その多くが白井ゼミで学び、まさしく部活動中心の大学生活であった。卒業後、コーチ・監督として剣道部に関わり後輩達と汗を流したことは私の大きな財産となっている。

大谷大学において、師安立多計彦と出会いをいただいた。先生の「武士の生活・作法」「剣道における呼吸法」などの講話は、今も私に強く息づいている。剣道の理念は「剣の理法の修練による人間形成の道」とされる。「剣の理法」は何かと自問すると、武士の「身法」「刀法」「心法」を今の生活の中で感じ、気づくことではないかと考える。稽古を通し心の理合いを大切に「剣の理法」の奥にある「武士の精神」を学ぶことを心掛けたい。

今年、剣道部は創部50年の節目の年を迎えた。

予てより剣道伝承の為、多くの先輩方が御尽力下さり、まさしく「剣術」から道徳教育の軸となりうる「剣道」を伝えていただいた。その英知とたゆまぬ努力に深く敬意を表し、新たに剣道部師範として、次の世代へ頂を同じく共に人として成長できる「剣道」に謙虚に取り組む所存である。



終わりに、八段審査に臨む最後の稽古も大谷大学の道場であった。午前には部活動に参加、午後は数名のOBと基本稽古を行い、審査当日に備えた。常に稽古ができる仲間があり、道場がある。私が頂戴している恵まれた環境に心を致すとき、無意識に落ち着き、捨て身で相手を動かす覚悟が生じたように感じる。

「感謝の心は、高い価値を見出し、よりよく活用することになる。報恩の念は、すべて喜びとなる。」元は松下幸之助氏の言葉である。

大谷大学に感謝。

(箱根山萬福寺 副住職 大谷大学剣道部 師範)

現役教員からのお便り▶▶▶

中国語、そして華語

大谷大学教授 (中国現代文学) 李 青

同窓生のみなさん、特に在学中に中国語を学んだみなさん、そして一緒に中国に語学留学に行ったみなさん、お元気でいらっしゃいますか。みなさんと学んだ中国語はまさしく中国の「標準語」でしたから、巻き舌音に苦しめられましたね。

最近、中国の若者の間では、香港、台湾、シンガポールからの輸入中国語が流行し、新語になっていたりしています。舌を巻かない中国語は、「華語」と呼ばれています。40数年前には、上海などの大都市で「同志諸君！標準語を話そう！」という張り紙を目にしました。公式の場では「標準語」を話そうとする政府の呼びかけは、中国の経済発展とともに当たり前になり、孔子学院が世界各国で「標準語」教育を推進しています。ところが、グロー

バル社会のなかで、中国は華人社会と融合することによって、経済発展を促進しようとして人的交流を深めていますから、「標準語」が絶対的という神話は崩れつつあるかもしれません。近い将来は「標準語」と「華語」、簡体字と繁体字が共存共生し合うでしょう。



その潮流にマッチさせるために、今年から台湾の淡江大学への短期留学が決定しました。同窓生のみなさんも、後輩を応援してくださいね。



ご結婚おめでとうございます

幸せなご家庭を築かれることを念じ申し上げます。

() 内は最終卒業・修了年(敬称略) ※同窓会本部 7月31日現在 掌握分
結婚式日順

※大谷大学尋源講堂で仏前結婚式をお受けしています。

お問い合わせは、総務課(電話：075-411-8163)まで。

坂本 和也	♥	鍛冶本花露(会友)	辻井 一	♥	澤渡 香奈(2007文)
川崎 孝	♥	鷺尾真由美(2009文)	藤坂 賢良(2013修)	♥	佐藤 法子(2011文)
天兒 悠(2012文)	♥	永井 優希(2006短)	廣瀬 仁(2014修)	♥	井上理依子(2011文)
堀 一夢(2008文)	♥	笠井 翠(2006短)	平尾 顕正(2011修)	♥	伊原 清美
光樂 孟志	♥	青木絵里子(2009文)	中村 健介(2013文)	♥	多々納絢香(2013文)

敬 弔

ご生前のご功勞を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

() 内は最終卒業・修了年(敬称略) 年月日はご逝去された日付

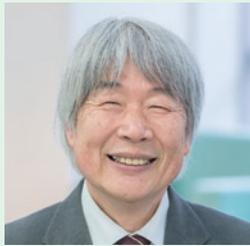
※同窓会本部 8月10日現在 掌握分
ご逝去された日付・五十音順

杉浦 典行 文学部(1980) 2015.1.14	滝津 昭 大専門(1949) 2016.8.25	佐々木信昭 修士(1976) 2017.1.9
田中 重光 文学部(1982) 2015.1.17	加藤 正順 大専門(1944) 2016.9.10	北條 裕宗 大学部(1948) 2017.1.12
杉谷 聖 文学部(1961) 2015.7.8	梅澤 一映 文学部(1976) 2016.9.14	渡邊 顯信 博士(1966) 2017.1.13
保々 正業 短期(1957) 2015.9.20	立野 義正 大学部(1946) 2016.9.14	鶴見 俊 文学部(1953) 2017.1.22
日野 純悟 文学部(1964) 2015.10.1	金光 昇允 短期(1953) 2016.9.18	梶井 昭弘 文学部(1995) 2017.1.27
雨森 秀芳 大学部(1951) 2015.10.19	鍵田 顕映 文学部(1967) 2016.9.22	池田 信之 文学部(1953) 2017.2.1
白河 乗縁 大選科(1941) 2016.2.6	日野西眞定 博士(1972) 2016.10.3	藤池 英澄 大専門(1946) 2017.2.2
松浦 晋 文学部(1961) 2016.2.29	倉岡 廣雄 大専門(1941) 2016.10.9	佐藤 静 文学部(1958) 2017.2.9
大中 元美 短期(1977) 2016.3.2	河村 晃 大学部(1947) 2016.10.12	明石 正順 修士(1986) 2017.2.24
片桐 了 文学部(1970) 2016.3.5	水荃 芳雲 大専門(1938) 2016.10.15	斉藤 秀憲 文学部(1959) 2017.3.1
坂田 英雄 大学部(1952) 2016.3.19	調 晋 文学部(1958) 2016.10.22	木村 恵 大専門(1945) 2017.3.4
渡辺 不退 大専門(1945) 2016.3.20	山崎 真樹 文学部(1959) 2016.11.1	畠山二三夫 短期(1962) 2017.3.10
菅生 芸宣 修士(1959) 2016.3.27	山田 俊明 文学部(1963) 2016.11.4	武田 正英 大学部(1952) 2017.3.12
篤 明俊 大学部(1951) 2016.4.10	藤戸 秀庸 修士(1976) 2016.11.5	寺林 惇 修士(1964) 2017.3.15
大塚 甫 大学部(1948) 2016.4.14	藤沢 善夫 文学部(1978) 2016.11.10	松米 明澄 文学部(1956) 2017.3.15
多田 周覚 大学部(1944) 2016.4.16	田村 文敏 文学部(1971) 2016.11.13	久米 典亮 大学部(1949) 2017.3.22
龍谿 素樹 文学部(1982) 2016.4.28	深澤 光 文学部(1982) 2016.11.14	竹中 大巖 大学部(1949) 2017.3.27
森田 茂実 文学部(1966) 2016.4.30	畝部 俊也 博士(1996) 2016.11.15	安富 信哉 博士(1973) 2017.3.31
廣瀬 孝夫 大学部(1952) 2016.5.4	浅野 玄誠 博士(1985) 2016.11.17	多門 智慶 大専門(1946) 2017.4.2
北畠 隆盈 文学部(1959) 2016.5.7	中谷 珊 文学部(1962) 2016.11.20	鎌倉 賢一 大予科(1944) 2017.4.3
平野 正樹 文学部(1979) 2016.5.26	藤田 賢秀 大学部(1943) 2016.11.25	本多 瑛夫 大学部(1952) 2017.4.5
本多 敦子 短期(1978) 2016.6.1	松間 紘之 文学部(1969) 2016.12.1	伊東 博男 大学部(1952) 2017.4.8
野村 慧 文学部(1958) 2016.6.14	千葉 喬 文学部(1954) 2016.12.4	高柳 照見 文学部(1955) 2017.4.13
辻岡 静隆 短期(1952) 2016.6.18	高嶋 晃寛 文学部(1956) 2016.12.6	長澤 隆静 短期(1962) 2017.4.20
藤田 量深 文学部(1953) 2016.6.26	三歸 義光 文学部(1964) 2016.12.7	藤原 澄 文学部(1968) 2017.4.27
浦上 覚 短期(1955) 2016.7.10	菊嶋 慶雄 文学部(1960) 2016.12.11	山名 貫心 大専門(1943) 2017.4.28
小柳 篤信 短期(1955) 2016.7.24	宮城 真泰 大学部(1952) 2016.12.13	白藤 順也 短期(1954) 2017.5.13
桑田 和夫 文学部(1966) 2016.7.27	渡邊 賢雄 文学部(1969) 2016.12.17	井上 行雄 大専門(1946) 2017.5.17
寺義 文雄 大学部(1948) 2016.7.27	水田 紀久 大学部(1951) 2016.12.21	藤木 諭 文学部(1965) 2017.5.18
河原喜久男 大学部(1942) 2016.8.1	芳友 恣 文学部(1956) 2016.12.21	高田 量丸 文学部(1973) 2017.5.31
松寺 淳照 短期(1953) 2016.8.2	土岐 誓三 短期(1954) 2016.12.22	野間 佳裕 大学部(1953) 2017.6.2
井口 榮樹 文学部(1967) 2016.8.8	梅溪 得乗 大学部(1946) 2017.1.1	杉野 明俊 短期(1952) 2017.6.14
本田 昭英 大学部(1951) 2016.8.8	谷川 道真 大専門(1949) 2017.1.1	松岡 満雄 短期(1977) 2017.6.29
飯居 孝人 文学部(1986) 2016.8.9	仁禮 文秀 短期(1963) 2017.1.6	相馬 温 文学部(1970) 2017.8.2
加藤 哲生 修士(2004) 2016.8.19	禿 正孝 文学部(1982) 2017.1.7	大平 達雄 文学部(1977) 2017.8.7

「最後に序文」

2号館の私の研究室には、本があふれている。ほとんどの先生方も同じようなものだろう。学生さんが初めて研究室に来ると、まず本の量に驚き、次に、これ全部読んだのですかと尋ねる。学生諸君は、本は全部読むものと思っているらしい。いや学生だけではなく、所用で来訪する人も同じような反応を示すことが多い。本は必要になった時、その箇所だけを読むのだと説明すると、ふうんとはいうもののあまり納得する様子はない。これほどある専門書を、最初から最後まで読んだら身体をこわすよ、と心の内でつぶやきながら、「目次をざっとみるだけであとは出番までまっもらうのですよ」とにこやかに説明する。それでもまだ不審顔の学生さんをちょっと安心させるために、ただし北側の本は全部読んだけど、と付け加える。

本棚は南と北の壁に設置されていて、北側に置いているのは、ほとんどが絵本である。絵本は面白いから読める、というより読みたい。短期大学部で紙芝居や絵本を



大谷大学短期大学部教授
幼児教育(日本児童文学)
藤本 芳則

講じてきたから、絵本も仕事の本だといえなくもない。本は月に何冊も読みますと言えば、絵本のことだとわからない人は、感心してくれる。

読書の王道は、1頁から順に読んでいくことだ、という意見を否定するつもりはない。必要な部分を「つまみ読み食い」ならぬ「つまみ読み」をしたり、後ろから逆に読むのは邪道というのも分かる。では、書く場合はどうだろう。読む順番に準じて1頁目から書いていくことは、まずない(と思う)。書ける所から書く、というやり方もあるが、問題は序文である。

レポートの序文は、最後に書くと教わったのはいつだったか。それまでは、読む順番に書くのだと思い込んでいた。序文、本論、結論と書いていくと、序文で書いたことと本論がちぐはぐになることが多い。それを防ぐには、本論に合うように序文を書くといい、というのだ。

全体をみて、整合性が取れるように序を書くのは、制作過程よりも出来上がりが問題だからだろう。生き方も同じようなもの。棺を蓋いて事定まる、という格言もある。最後の「序文」次第で、評価が変わってしまうかもしれない。これからどんな「序文」を書くべきか。そんなことを考えなければならなくなったようだ。

表紙絵 「坐」

45.5×33.5cm 2017年作

立派な人は死後、後になるほど神格化され、さまざまなエピソードが付加されて本質から離れていくことがあります。そのため仏教の教祖釈尊も遠い存在で、実存した人と思われなかったこともあり。たった750年余り前の親鸞聖人さえも、恵信尼文書が大正10年に発見されるまでは、存在さえも疑問視されたことがあります。

釈尊の教えの中で最も古い経典の一つスッタニパータ(sutta nipāta-ブツダのこば-)は、中国では漢訳されず、そのため日本の仏教では長い間ほとんど知られてこなかったのですが、仏教学的には極めて重要な経典です。スッタは経糸、ニパータは集成の意味です。つまり本筋の経糸に多くの緯(横糸)が入り、布が形成されることによります。そのため初期の経典は短い詩句の集成でもって記されています。この最初期の経典には釈尊の生の言葉や深い信念を感じます。スッタニパータには何回となく、坐することが説かれています。坐とは禅定のことです。人は煩惱に包まれています。禅定することで無になるということは、凡人には不可能です。禅(禅定)は、坐することによって仏教徒にとって自己を省みることです。しかし、禅が仏教の全てではないのは明らかです。スッタニパータ第2章331句には「起てよ、坐れ。眠って汝らになんの益があろう。矢に射られて苦しみ悩んでいる者ど

もは、どうして眠られようか。」388句目には「一人で退いてひそかに坐れよ。自己を制して、内に顧みて思い、こころを外に放ってはならぬ。」真逆のようではありますが、どちらも同じ、必要なことです。仏教は内省し、全て我が身に置きかえて考えるものです。「生を明らめ、死を明らむるは、仏家一大事の因縁なり」と道元禅師はおっしゃっていますが、生死が一大事であって、老や病は生きていれば当たり前のことです。

私が学生の頃の学長は曾我量深先生でした。先生は91才でしたが、聡明でした。当時学生運動が盛んで、たいしたことでもないのに、何にでもナンセンスと叫んでいましたが、先生は一言「これはコモンセンスですよ」とおっしゃいました。現在老いは世の中では用無しのように言われて、負のように思われていますが、老いは人類の歴史と同じであって、叡智の蓄積であり、次代に繋ぐために必要なものであると思えます。人生に定年はありません。心と身体は同体です。老いに鞭打ってでも心を深めねばなりません。過去の出来事にこだわらずに過去を現在に生かさねばなりません。今ほど「古いものにとらわれない。新しいものに惑わされない。」という釈尊の言葉を考えなければならぬと思っています。

畠中光亨(1970年文学部卒業)

日本画家 インド美術研究者

2017年9月21日発行

発行 大谷大学同窓会本部
編集 『無盡燈』編集委員会

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内
電話 (075) 411-8124 FAX (075) 411-8157
振替 01020-9-20542

同窓会ホームページ <http://www.mujinto-otani.org/>

E-mail:kouyu@sec.otani.ac.jp

『無盡燈』の題字について 親鸞聖人の真蹟の坂東本『教行信証』から集字したものです。『維摩経』に「無盡燈というのは、譬えば一つの燈をもって百千の燈をともしようものである。冥やみがみな明るくなるが、その明りはついになくなることがない。…説かれた教えのとおりにみずから一切の善いことがらを増しふやす。これを無盡燈となづける」とあり、先輩がともし続けた伝統に輝く燈の名に恥じないことが願われています。



ホームページ「無盡燈」
毎月1回更新しています。

<http://www.mujinto-otani.org/>



大谷大学同窓会Facebook
活躍中の同窓生の様子や、大谷大学の最新情報をお知らせしています。ぜひご覧ください。

<https://www.facebook.com/mujinto.otani/>

